

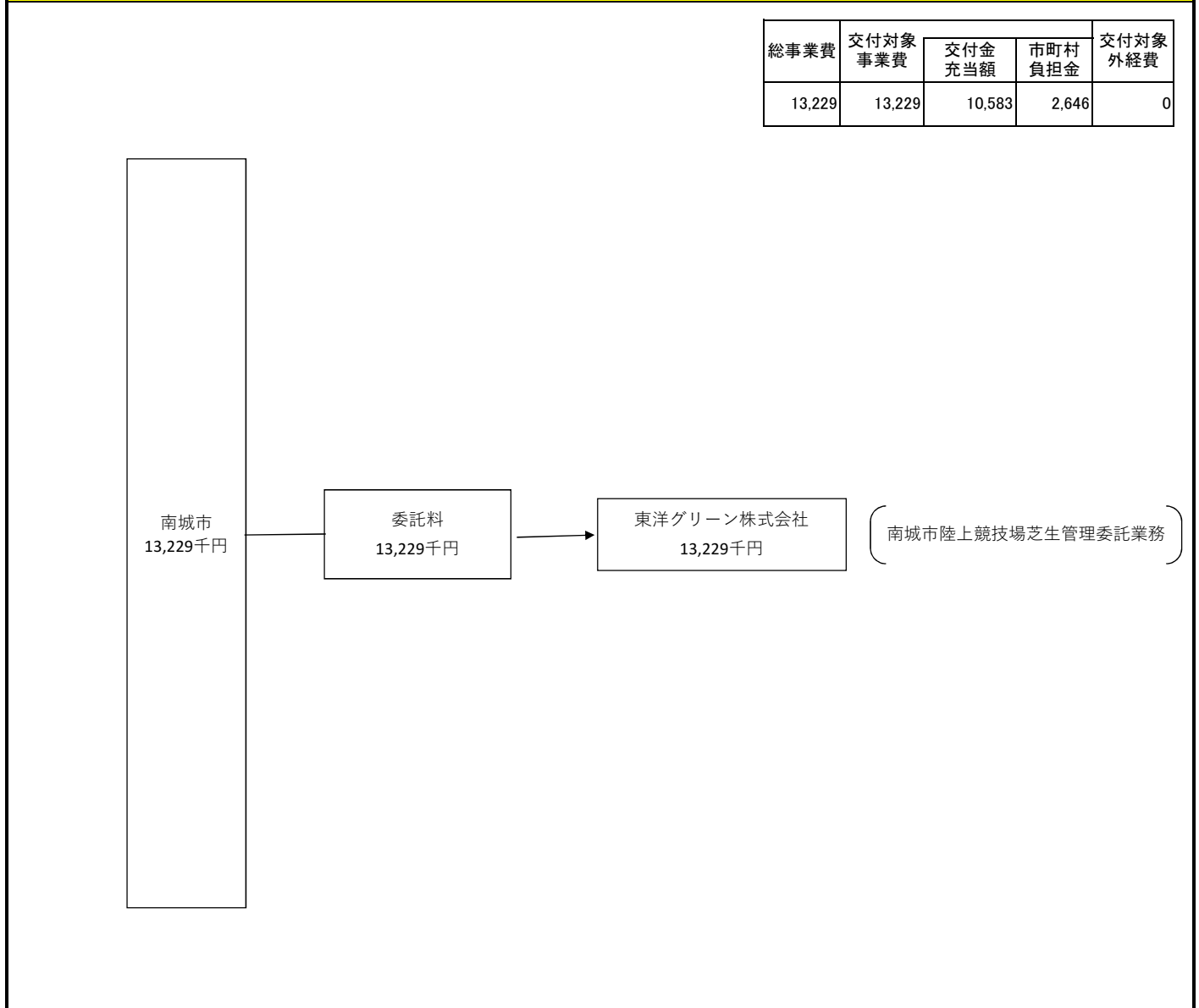
| | | | | | | | |
|--|--|------------------------|--|------------------------|------------------------|----------------------------|------------------------|
| 市町村名 | 南城市 | | | | | | |
| 令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 1-① | スポーツツーリズム推進事業 | | | 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第3章-3-(2)-ア | |
| 担当部課名 | 教育部 生涯学習課 | 事業実施(予定)年度 | 平成24~令和3年度 | | 沖縄振興基本方針該当箇所 | 国際的な沖縄観光ブランドの確立 Ⅲ-1-(1) | |
| 事業内容 | 市陸上競技場における天然芝の適正管理を行い、プロ・サッカーチームのキャンプ受入に適した環境整備を行うことで、プロ・サッカーチームのキャンプ誘致に繋げる。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | <input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | 予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d) | H27年度 | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R1年度 | |
| | | 7,046 | 7,836 | 12,690 | 13,284 | 13,284 | |
| | | 7,046 | 7,836 | 12,690 | 13,284 | 13,284 | |
| | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | B. 執行済額 | | 6,923 | 7,737 | 12,636 | 13,262 | 13,229 |
| | うち交付金充当額 | | 5,522 | 6,189 | 10,180 | 10,609 | 10,583 |
| | 次年度繰越額 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 執行率(%) (B/A) | | 98.3% | 98.7% | 99.6% | 99.8% | 99.6% |
| | 予算の状況の説明 | | 当初計画に基づき予定していた事業内容は全て実施できた。不用額55千円については、予算額と契約額の差額である。 | | | | |
| | 活動目標(指標)及び達成状況 | R1活動目標(指標) | 達成状況 | | | | |
| | | | H29年度 | H30年度 | R1年度 | R2年度 | |
| 良質な芝生を維持する為の適正管理 | | 目標 | (適正管理の実施) | (適正管理の実施) | (適正管理の実施) | () | |
| | | 実績 | 適正管理の実施 | 適正管理の実施 | 適正管理の実施 | | |
| | 目標 | () | () | () | () | | |
| | 実績 | | | | | | |
| 達成状況説明 | 天然芝を良質な状態で維持するため、①シャッターリング作業 ②スリッティング作業 ③バーチカル作業 ④ドリルエアレーション作業 ⑤液剤散布作業 ⑥目砂散布作業を実施し、キャンプ誘致の環境整備を行った。 | | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | R1成果目標(指標) | 基準値(年度) | H29年度 | H30年度 | R1年度 | 目標値(年度) | |
| | | | | | | | |
| | プロ・サッカーチームのキャンプ誘致件数:3チーム | 目標 | () | (3チーム) | (3チーム) | (3チーム) | () |
| | | 実績 | | 3チーム | 3チーム | 1チーム | |
| | 目標 | () | () | () | () | () | |
| | 実績 | | | | | | |
| 進捗状況説明 | キャンプシーズン前半(1月)においてプロ・サッカー1チーム(ジェフユナイテッド市原・千葉)を受け入れることができたが、キャンプ後半(2月~3月)は新型コロナウイルスの影響により予定していた中国河南建業足球倶楽部(中国のプロチーム)及び県をとおしキャンプ誘致していた「なでしこリーグ」のチームがキャンセルとなり、目標を達成することができなかった。 | | | | | | |

| | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|---|--|
| 取組の検証 | <ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ誘致・受入れの環境づくりとして、天然芝を良質な状態で維持できているが、天然芝の維持・管理費等の財源確保に苦慮している。 ・受入れチームと少年サッカー団体は交流を実施しているが、全年代を対象に交流の場を設定できないか競技団体等から要望がある。 ・キャンプ地としての地位を確立するため、毎年、継続してプロ・サッカーチームに使用してもらう必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ誘致・受入れ環境づくりにかかる施設の維持・管理費等の見直し及び財源確保について検討する。 ・市内サッカーチームとプロ・サッカーチームとの交流(サッカー教室等)を推進する仕組みづくり構築に向けて検討する。 ・受入れしたプロ・サッカーチームから意見を聴取する場を設け、受入れ環境の向上と更なる信頼関係の構築を図る。 |

今後の取り組み方針

- ・持続可能なキャンプ誘致・受入れ環境づくりに向け、維持・管理費の見直し及び財源確保(施設使用料の増収及びネーミングライツ等)に取り組む。
- ・令和2年度に設立予定の南城市サッカー協会と連携し、幅広い世代とプロ・サッカーチームとの交流を推進する体制を構築する。
- ・受入れしたプロ・サッカーチームから要望等の意見交換の場を設け、受入れ環境の向上と更なる関係構築を図ることで、継続的なキャンプ地利用に繋げる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



| 資金用途の流れ検証・評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|--------------|----|--------------------------------|---|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○陸上競技場の使用状況と芝生や土壌の状態を把握できる業者と契約を交わす必要があるが、業務の性質から競争入札に適さないと判断し随意契約としているため、選定方法は妥当である。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | ○費用、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。 |
| | - | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○不用額は1%以内であり、適正な規模であった。 |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○費用、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。 |

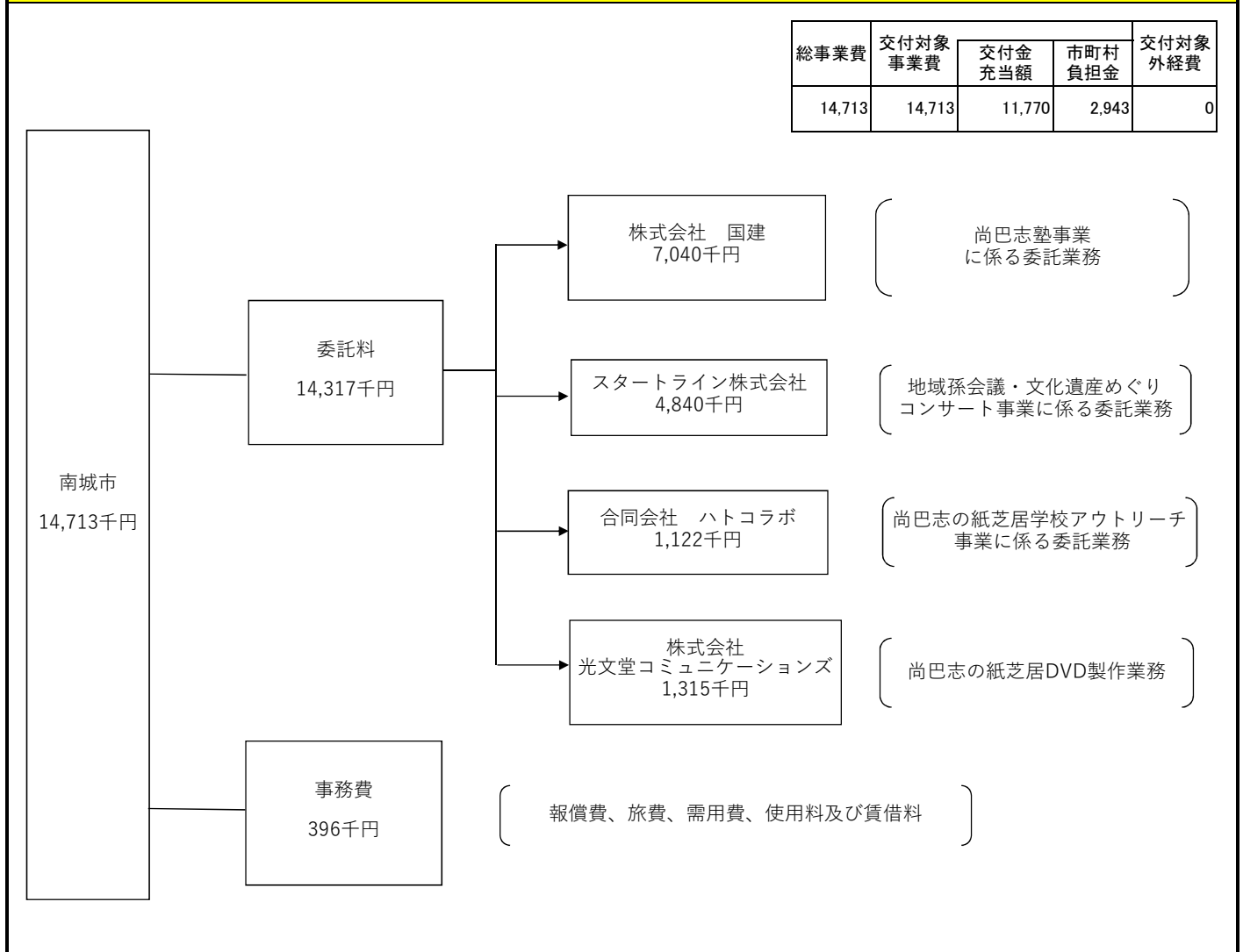
| 市町村名 | | 南城市 | | | | | |
|---|---|---|--|---------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------|-----------------|
| 令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 1-② | | 尚巴志活用マスタープラン実施事業 | | 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第3章-3-(2)-ア | |
| | 担当部課名 | 教育部 文化課 | | 事業実施(予定)年度 | 平成26~令和元年度 | 沖縄振興基本方針該当箇所 | 国際的な沖縄観光ブランドの確立 |
| 事業内容 | | 平成25年度に策定した「尚巴志活用マスタープラン」に基づき、尚巴志関連の文化資源を活用し、地域の歴史文化を学べる機会を創出することで、市の歴史文化の継承を図る。 | | | | | |
| 効果発現年度 | <input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | | | H27年度 | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R1年度 |
| | 予算の状況 | (a) 当初予算額 | 10,000 | 15,000 | 15,000 | 13,100 | 15,000 |
| | | (b) 予算現額 | 12,268 | 15,000 | 15,000 | 13,100 | 15,000 |
| | | (c) 増減額(b-a) | 2,268 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | (d) 繰越額 | - | - | - | - | - |
| | | A. 計(b+d) | 12,268 | 15,000 | 15,000 | 13,100 | 15,000 |
| | B. 執行済額 | | 12,125 | 13,373 | 10,621 | 11,688 | 14,713 |
| | うち交付金充当額 | | 9,700 | 10,698 | 8,496 | 9,350 | 11,770 |
| | 次年度繰越額 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 執行率(%) (B/A) | | 98.8% | 89.2% | 70.8% | 89.2% | 98.1% |
| 予算の状況の説明 | | 市内全中学校へ琉歌講座の実施の希望を募ったが、1校のみの実施となり、講座実施数の減に伴う講師謝礼の報償費77千円等を含む287千円の不用が生じた。 | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | R1活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | |
| | | | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R1年度 | |
| | 1. 尚巴志の普及・啓発・情報発信 ①「紙芝居学校アウトリーチ」市内小学校9校(各1回) ②「文化講演会」1回 ③紙芝居DVD制作 | 目標 | (①9校(各1回)) (②1回) | (①9校(各1回)) (②1回) | (①9校(各1回)) (②1回) | (①9校(各1回)) (②1回 ③制作) | |
| | | 実績 | ①9校(各1回) ②1回 | ①9校(各1回) ②1回 | ①9校(各1回) ②1回 | ①9校(各1回) ②1回 ③制作 | |
| | 2. 地域興しの人材育成 「尚巴志塾事業」講座6回 | 目標 | (-) | (4回) | (6回) | (6回) | |
| | | 実績 | - | 6回 | 5回 | 5回 | |
| 3. エコミュージアムの創造 ①「文化遺産巡りコンサート」市内文化遺産所在地区4箇所(各1回) ②「地域孫会議事業」上記開催地区4箇所(各1回) ③「琉歌募集事業」 | 目標 | (①4箇所(各1回)) (②4箇所(各1回)) ③実施 | (①4箇所(各1回)) (②4箇所(各1回)) ③実施 ④修復 | (①4箇所(各1回)) (②4箇所(各1回)) ③実施 | (①4箇所(各1回)) (②4箇所(各1回)) ③実施 | | |
| | 実績 | ①4箇所(各1回) ②4箇所(各1回) ③実施 | ①4箇所(各1回) ②4箇所(各1回) ③実施 ④未実施 | ①4箇所(各1回) ②4箇所(各1回) ③実施 | ①4箇所(各1回) ②4箇所(各1回) ③実施 | | |
| 達成状況説明 | | ・「紙芝居学校アウトリーチ(学校訪問)」尚巴志の生き方を紙芝居として制作し、市内全小学校9校で実施。 ・「文化講演会」1回実施。 ・「紙芝居DVD制作」150枚制作。 ・「尚巴志塾事業」(地域に残る宝を発見し、発信・活用していくことができる人材の育成)6回を目標としていたが、受注業者と提案内容を協議した結果、5回で充分事業目標を達成できるため5回で実施。 ・「文化遺産巡りコンサート」(文化遺産の所在地でコンサートを実施)4回実施。 ・「地域孫会議事業」(地域の歴史を孫世代まで伝えることを目的とした事業)4回実施。 ・「琉歌募集事業」(南城市内に残る文化遺産をテーマとした琉歌を募集し、優秀作品を表彰する)。大里中学校にて琉歌講座を実施。 | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | R1成果目標(指標) | | 基準値(年度) | H29年度 | H30年度 | R1年度 | 目標値(年度) |
| | 各事業実施後、参加者に対するアンケートを実施し、市の歴史文化への理解が深まったか(80%以上)を含め、本事業のあり方について検証する。 | 目標 | () | (-) | (80%以上) | (80%以上) | () |
| | | 実績 | / | - | 87% | 85% | / |
| | | 目標 | () | () | () | () | () |
| | | 実績 | / | / | / | / | / |
| 進捗状況説明 | | 各事業において、参加者に対してアンケートを実施した結果、80%以上の方から本事業の趣旨について好意的な評価をいただき、目標を達成した。 | | | | | |

| | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|---|--|
| 取組の検証 | <ul style="list-style-type: none"> ・尚巴志の紙芝居は、これまで市内小学校でしか見ることができなかったが、DVDを制作したことで、より幅広い層に鑑賞する機会を提供できるようになった。 ・琉歌募集事業の応募者数が少なく、特に若年層への普及啓発が課題となっている。 ・尚巴志塾で育成した人材が、今後も継続して市内各地域の魅力を発掘・活用していけるような取組が求められる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまで紙芝居を上演してこなかった市内中学校や地域住民が鑑賞できるよう、制作したDVDを市内中学校や図書館等へ配布する。 ・琉歌講座の実施校を増やして若年層が琉歌に親しむ機会を設けるほか、一般向けの琉歌講座を開催する。 ・尚巴志塾等で育成した人材の活用方法について、関係課と連携した取組を検討する。 |

今後の取り組み方針

- ・制作した尚巴志の紙芝居DVDを市内小中学校や図書館等へ配布し、活用を促すことで尚巴志という人物の普及啓発を行う。
- ・琉歌募集事業では、事前に市内中学校と決め細やかに事務調整を行い、琉歌講座の実施校の増加に取り組む。また、琉歌の普及啓発に向けて新たに一般向けの琉歌講座を実施する。
- ・尚巴志塾等で育成した人材については、関係課と連携し、今後本市で取り組んでいくエコミュージアム等の各種事業での活用に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



| 資金の流点検・評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|-----------|----|--------------------------------|---|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○尚巴志塾事業、地域孫会議・文化遺産巡りコンサート事業は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。紙芝居学校アウトリーチ運営委託業務、尚巴志の紙芝居DVD制作業務については、指名競争入札で選定しており、妥当であったと考える。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | ○報償費等においては不用額が生じたが、その他の事業内容は適正に実施しており、予算規模については適正であった。 |
| | — | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○費目・用途についても事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時に支出等に関する書類により確認又は検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。 |
| | ○ | 費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| 市町村名 | | 南城市 | | | | | |
|--|---|-------------------------------|------------|--------|--------------------|------------------------------|--------|
| 令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 1-③ | 南城市産商品販売力強化事業 | | | 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第3章-3-(12)-ウ | |
| 担当部課名 | 企画部 観光商工課 | 事業実施(予定)年度 | 平成27~令和2年度 | | 沖縄振興基本方針該当箇所 | 特産品開発やプロモーションなどマーケティング支援等の強化 | |
| 事業内容 | 市産商品の売上増加を図るため、市産商品のPR及び販売活動を行う。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | <input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | 予算の状況 | H27年度 | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R1年度 | |
| | | (a) 当初予算額 | 12,178 | 12,000 | 12,000 | 10,000 | 10,000 |
| | (b) 予算現額 | 8,046 | 12,000 | 12,000 | 10,000 | 10,000 | |
| | (c) 増減額(b-a) | ▲ 4,132 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | (d) 繰越額 | - | - | - | - | - | |
| | A. 計(b+d) | 8,046 | 12,000 | 12,000 | 10,000 | 10,000 | |
| | B. 執行済額 | 8,046 | 11,967 | 11,945 | 9,990 | 9,964 | |
| | うち交付金充当額 | 6,436 | 9,573 | 9,555 | 7,991 | 7,971 | |
| | 次年度繰越額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 執行率(%) (B/A) | 100.0% | 99.7% | 99.5% | 99.9% | 99.6% | |
| 予算の状況の説明 | 概ね予定通り予算を執行することができた。不用額36千円は、予算額と契約額の差額である。 | | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | R1活動目標(指標) | 達成状況 | | | | | |
| | | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R1年度 | | |
| | 市内イベント等での販売活動 | 目標 | (-) | (-) | (2回) | (1回) | |
| | | 実績 | - | - | 1回 | 1回 | |
| | 県内観光商業施設等での販売活動 | 目標 | (-) | (-) | (1回) | (1回) | |
| | | 実績 | - | - | 2回 | 1回 | |
| | 市外イベントでの販売活動 | 目標 | (-) | (-) | (-) | (1回) | |
| 実績 | | - | - | - | 1回 | | |
| 達成状況説明 | 市内イベントの南城市フードフェスタ、市内観光商業施設の市物産フェア、市外イベントの沖縄の産業まつり内「ありんくりん市」での販売活動に取り組んだ。どのイベントも盛況で販売促進に繋がった。 | | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | R1成果目標(指標) | 基準値(年度) | H29年度 | H30年度 | R1年度 | 目標値(年度) | |
| | | 商品売上額:441万円以上(出展するイベント等での売上額) | () | (-) | (717,064円以上) | (441万円以上) | () |
| | | 実績 | | - | 4,404,127円 | 3,091,969円 | |
| | | 目標 | () | () | () | () | () |
| | | 実績 | | | | | |
| 進捗状況説明 | 市内外の3イベントにおける売上額は、目標値441万円に対して約310万円となり、目標を達成することができなかった。要因としては、12月に開催した南城市フードフェスタの初日が悪天候により中止になった影響があげられる。2日目については対前年度比で売上額は増加しており、また、アンケートの結果等から客層は購買意欲が期待できるファミリー層が多く、両日とも開催できていれば昨年度を超えていたと予想される。 市内の観光施設で2か月間実施した市物産フェアでは、1事業所がフェア後も商品を店舗内で継続販売する契約に至った。ありんくりん市では、南城セレクションを受賞した商品の売上額が、前年度出展時より増加したとの報告があり、商品のPRならびに付加価値向上に繋がっていることが分かった。 | | | | | | |

| 取組の検証 | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|---|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> 市産商品のPR及び販売活動の場を確保するため、できる限り悪天候による中止を避け、多くの集客が見込めるようなイベントを実施する必要がある。 市産商品の売上増及び販売力強化に向け、市内事業所が主体となったイベント実施にも取り組む必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 市の主催である南城市フードフェスタについて、開催時期を見直し、ターゲットを明確にしたより効果的な集客イベントを盛り込むよう検討する。 市内の事業所が連携してイベントを運営できるような組織体制を構築する。 |

今後の取り組み方針

・南城市フードフェスタについて、委託事業者と協議し適切な開催時期を決定するとともに、ファミリー層をターゲットとしたより効果的な集客イベントを盛り込むよう検討する。

・市内事業所の中から核となりえる方を構成員として選出し、市主催のイベント設計の実務に携わりながら、市内事業所主体のイベント運営に向けた組織体制の構築に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

| 総事業費 | 交付対象事業費 | 交付金充当額 | | 交付対象外経費 |
|-------|---------|--------|-------|---------|
| | | 市町村負担金 | | |
| 9,964 | 9,964 | 7,971 | 1,993 | 0 |



| 資金の流点検・評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|-----------|----|--------------------------------|--|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○委託事業者は、プロポーザル方式で選定を行い妥当であった。 ○予算規模は適正であった。 ○事業内容や事業所の育成の視点から考慮し出展費、協賛費などから判断しても妥当であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | |
| | ○ | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | ○ | 費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| 市町村名 | | 南城市 | | | | | |
|--|---|------------------------------|-------------|-------------|--------------------|-------------------------------------|-----|
| 令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 1-④ | 海外交流推進事業 | | | 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第3章-3-(6)-ア | |
| 担当部課名 | 企画部 観光商工課 | 事業実施(予定)年度 | 平成28~令和元年度 | | 沖縄振興基本方針該当箇所 | 沖縄のソフトパワーを活用した新事業・新産業の創出 Ⅲ-1-(1) | |
| 事業内容 | アジアからの外国人観光客の増加を図るため、アジアから学生インターンシップを受け入れ、海外からの視点で南城市の観光における魅力や課題を探り、地域の観光関連事業者へ共有するとともに、外国人観光客に関する誘客要素や希望を調査する。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | ■当年度 □後年度(年度) | | | | | | |
| 実施方法 | □直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | 予算の状況 | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R1年度 | R2年度 | |
| | | (a) 当初予算額 | 4,000 | 4,136 | 7,537 | 7,533 | |
| | (b) 予算現額 | 4,000 | 4,136 | 7,537 | 7,657 | | |
| | (c) 増減額(b-a) | 0 | 0 | 0 | 124 | | |
| | (d) 繰越額 | - | - | - | - | | |
| | A. 計(b+d) | 4,000 | 4,136 | 7,537 | 7,657 | | |
| | B. 執行済額 | 3,996 | 4,112 | 7,516 | 7,657 | | |
| | うち交付金充当額 | 3,196 | 3,289 | 6,012 | 6,125 | | |
| | 次年度繰越額 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 執行率(%) (B/A) | 99.9% | 99.4% | 99.7% | 100.0% | | |
| 予算の状況の説明 | 消費税の増額に伴う事業間流用を行い、概ね予定通り予算を執行することができた。 | | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | R1活動目標(指標) | 達成状況 | | | | | |
| | | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R1年度 | | |
| | アジアからのインターンシップ受け入れの実施 | 目標 | (受入実施) | (受入実施) | (受入実施) | (受入実施) | |
| | | 実績 | 3名受入 | 2名受入 | 3名受入 | 2名受入 | |
| | アジアに向けた観光PR活動の実施 | 目標 | (PR活動の実施) | (PR活動の実施) | (PR活動の実施) | (PR活動の実施) | |
| | | 実績 | PR活動の実施 | PR活動の実施 | PR活動の実施 | PR活動の実施 | |
| | 市内観光事業者へのセミナー開催(成果共有) | 目標 | (-) | (-) | (セミナー実施) | (セミナー実施) | |
| 実績 | | - | - | 1回開催 | 1回開催 | | |
| 達成状況説明 | <ul style="list-style-type: none"> 香港理工大学より、日本語を専攻する2名のインターンシップ生を受け入れ、市内3事業者との連携により企業インターンシップを実施したほか、琉球大学と連携して本市の観光産業について学ぶ機会を設け、南城市観光の現状と課題を把握し、課題解決策のプレゼンテーションを行ってもらった。 香港理工大学において、インターンシップの成果を他の学生等に向けて発表するとともに、南城市のPR等を行った。 観光関連事業者を講師に招き海外観光セミナーを開催し、海外観光客のニーズや市場動向を学習する機会を設けた。 | | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | R1成果目標(指標) | 基準値(年度) | H29年度 | H30年度 | R1年度 | 目標値(年度) | |
| | | 齋場御嶽における外国人観光客数: 40,000人以上/年 | 目標 () | (-) | (40,000人以上) | (40,000人以上) | () |
| | | 実績 | | - | 26,367人 | 21,194人 | |
| | | 目標 | | () | () | () | |
| | | 実績 | | | | | |
| 進捗状況説明 | <ul style="list-style-type: none"> アジアからの外国人観光客数を把握するのが困難であるため、市の主要観光地である「世界遺産・齋場御嶽」への外国人観光客数を設定している。令和元年度は政治的軋轢があった韓国からの観光客の減少や、新型コロナウイルスによる渡航減少も影響して実績は21,194人となり、目標値を達成することができなかった。 | | | | | | |

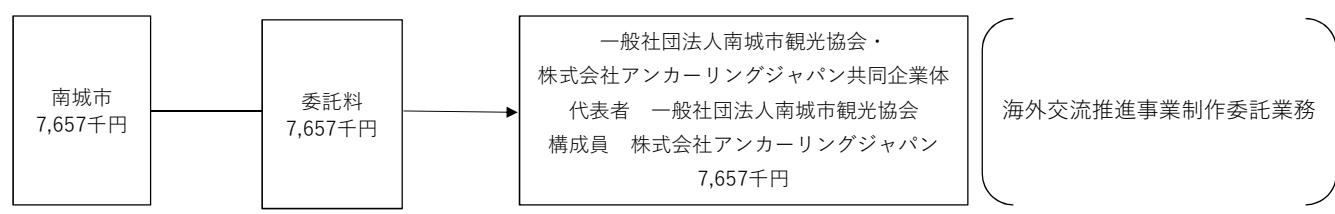
| | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|--|---|
| 取組の検証 | <ul style="list-style-type: none"> ・当市では主な観光形態が通過型観光であり、良質な観光資源を活用した滞在型観光メニューが不足しているため、外国人観光客のニーズに合う、滞在型のプログラムを盛り込んだツアー商品を開発する必要がある。 ・海外市場へのアプローチのため、海外市場視察を行い、現地企業と南城市内企業間のコネクション構築を行った。引き続き市場関係者の関係構築を図るとともに、海外市場へ南城市の商品販売を促進するためのマーケットを開拓する必要がある。 ・今後はインターンシップを自走化し、民間主導での継続的な実施が求められるため、基金も含めた運営資金の確保について検討を行ったところ、有償インターンシップやワーキングホリデー等の活用が有効ではないかの提案があった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ留学生が成果報告会にて提案した、海外からの視点による南城市の観光の魅力を、商品開発の参考として取り入れ、観光客が多く時間を過ごすことのできる魅力ある商品を開発する。 ・引き続き市場関係者との信頼構築を図るとともに、海外市場調査及び南城市への受け入れに関するアンケート調査を実施し、海外市場への効果的なアプローチに取り組む。 ・インターンシップの仕組みづくりについて、運営資金確保及び連携体制構築に向けてサポートを行い、民間での自走化を促進する。 |

今後の取り組み方針

- ・インターンシップ留学生の提案も参考にしながら滞在型メニューを開発し、モニターツアーと事業者に対するフィードバック、商品化に向けたブラッシュアップを行うことで、外国人観光客の増に繋げる。
- ・観光消費額の高い海外市場について調査を行うとともに、南城市への受け入れに関するアンケート調査を実施し、沖縄県及び南城市内における受入実態を把握したうえで、関係者を招集し調査結果を分析し、海外市場へのアプローチ方法等について検討を行う。
- ・インターンシップの仕組みづくりについて、自走化に向けて関係機関同士の連携体制構築などについて会議を行い、持続可能な双方向の人材交流の実現を目指す。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

| 総事業費 | 交付対象事業費 | 交付金充当額 | 市町村負担金 | 交付対象外経費 |
|-------|---------|--------|--------|---------|
| 7,657 | 7,657 | 6,125 | 1,532 | 0 |



| 資金の流 れ、 点 検 ・ 評 価 | 評価 | 点 検 項 目 | 評価に関する説明 |
|-------------------------------------|----|--------------------------------|---|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○委託については随意契約であるが、公募型プロポーザル方式により受注候補者を選定しており妥当であったと考えられる。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | ○予定していた業務は滞りなく全て執行されており、執行率においても対予算額の不用額が1%未満であることから適正であったと考えられる。 |
| | - | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○費用、用途については、完了後に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。 |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| 市町村名 | | 南城市 | | | | | |
|--------------------------------------|---|------------------------------------|------------|--------------------|-------------------------------------|--------|-----------|
| 令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 1-⑤ | 南城型エコミュージアム実施計画策定事業 | | 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第3章-3-(6)-ア | | |
| 担当部課名 | 企画部 観光商工課 | 事業実施(予定)年度 | 平成28~令和元年度 | 沖縄振興基本方針該当箇所 | 沖縄のソフトパワーを活用した新事業・新産業の創出 Ⅲ-1-(1) | | |
| 事業内容 | 観光誘客を図るため、自然・歴史・文化・人など地域の魅力ある資源を活用し、新たな観光資源を創出するため、市内27地域のエコミュージアム計画を策定する。 令和元年度は、南城型エコミュージアム実施計画(各論3)を策定する。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | <input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R2年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | | | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R1年度 | R2年度 |
| | 予算の状況 | (a) 当初予算額 | 10,012 | 6,826 | 6,664 | 6,632 | |
| | | (b) 予算現額 | 10,073 | 6,826 | 6,664 | 6,732 | |
| | | (c) 増減額(b-a) | 61 | 0 | 0 | 100 | |
| | | (d) 繰越額 | - | - | - | - | |
| | A. 計(b+d) | | 10,073 | 6,826 | 6,664 | 6,732 | |
| | B. 執行済額 | | 10,073 | 6,664 | 6,631 | 6,732 | |
| | うち交付金充当額 | | 8,053 | 5,330 | 5,304 | 5,385 | |
| | 次年度繰越額 | | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 執行率(%) (B/A) | | 100.0% | 97.6% | 99.5% | 100.0% | |
| 予算の状況の説明 | | 消費税の増額に伴う事業間流用を行い、事業計画どおりに予算を執行した。 | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | R1活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | |
| | | | H30年度 | R1年度 | R2年度 | R3年度 | |
| | 地域懇談会実施箇所:9地域 | 目標 | (9地域) | (9地域) | () | () | |
| | | 実績 | 9地域 | 9地域 | | | |
| 企画提案参加学生チーム:9チーム | 目標 | (9チーム) | () | () | () | | |
| | 実績 | 0チーム | | | | | |
| 達成状況説明 | 令和元年度は手登根、知念、百名、新原、玉城、奥武、富里、當山、稲嶺の9地域で各4回の地域入り懇談会を開催し、エコミュージアムの説明及び地域資源や観光に対する考え方などについて聞き取りと対話を行い、計画を策定した。 | | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | R1成果目標(指標) | | 基準値(年度) | H30年度 | R1年度 | R2年度 | 目標値(R2年度) |
| | 南城型エコミュージアム実施計画(各論その3)策定(9地域) | 目標 | () | (9地域) | (9地域) | () | () |
| | | 実績 | | 9地域 | 9地域 | | |
| | 【R2成果目標】 地域ごとのエコミュージアム計画を基に、観光誘客を目的とした事業の実施に繋げる。 | | 目標 | () | () | () | () |
| 進捗状況説明 | <p>下記に記載のとおり事業を実施し、南城型エコミュージアムのコンセプト「命と祈り」を設定したことで、これから地域ブランディングをはじめ、持続可能な観光地経営、内向け・外向けのプロモーション、着地型の体験プログラムやエシカル商品の創出などに取り組んでいく計画書を策定することが出来た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9地域で地域入り懇談会を実施し、手ぬぐいデザインの作成と、総論で整理された地域の将来像について修正・確認を行った。 ・過年度懇談会を実施した地域へのフォローアップとして、過去の18地域を対象に、事業終了後の取組状況や今後の活動希望を把握するためにヒヤリングを行った。 ・全27地域を対象に内外へ情報発信を行い、地域のエコミュージアムの取組やサテライトのストーリーを伝えるブランディング事業を実施した。 ・実際にエコミュージアムを動かす担い手となることが想定されるメンバーを集めた「プレイヤー会議」を実施し、地域資源を活用した観光まちづくりの取り組みを進めるための意見出しを行った。 | | | | | | |

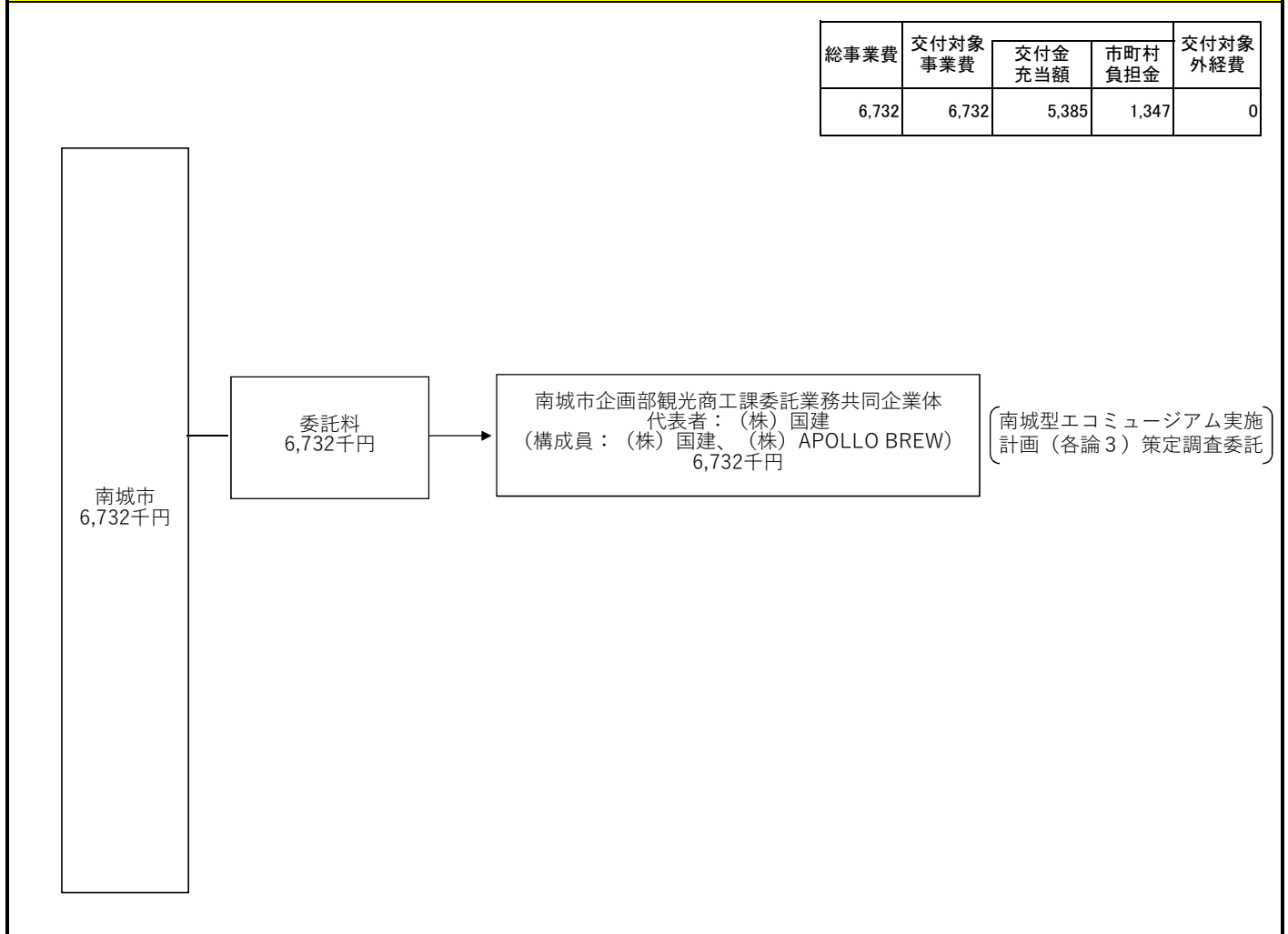
| | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|---|--|
| 取組の検証 | <ul style="list-style-type: none"> ・南城型エコミュージアム実施計画の実現に向けて、今回計画を策定した9地域を含め、これまでに懇談会を実施してきた地域への継続的なフォローアップが必要である。 ・南城型エコミュージアムの認知向上を図るため、全27地域のブランディングテーマを基本に、市内外に普及啓発していく必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各地域の取り組み状況を随時確認し、エコミュージアムを活用した事業の実施についてフォローアップを行う。 ・令和2年度事業において、市民参加型ワークショップやイベントによる情報発信を行う。 |

今後の取り組み方針

・市が主催する区長会等において、27地域の状況確認・情報共有を図るとともに、エコミュージアム実現の担い手となる地域のプレイヤーが、エコミュージアムを活用した事業を実施できているかフォローアップを行う。

・南城型エコミュージアムについて、市内外における認知向上を図るため、市民を対象としたワークショップ及び県内外で展示会を開催し、情報発信を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



| 資金の流 れ 点 検 評 価 目 ・ | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|---|----|--------------------------------|--|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○委託事業者は公募型プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は無く、適正な規模であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | |
| | — | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | ○ | 費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| 市町村名 | | 南城市 | | | | | |
|--|--|---|-------------|-------------|--------------------|----------------------------|---------|
| 令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 1-⑥ | 観光振興将来拠点地整備事業 | | | 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第3章-3-(2)-エ | |
| 担当部課名 | 企画部 企画課 土木建築部 施設整備課 | 事業実施(予定)年度 | 平成25~令和元年度 | | 沖縄振興基本方針該当箇所 | 観光客の受入体制の整備 Ⅲ-1-(1) | |
| 事業内容 | 公共駐車場の整備により、各種イベント時の駐車場不足やイベント開催拠点の確保等の課題を解消することで来訪者の利便性を確保する。また、災害発生時の避難場所及び防災拠点として活用することで、市民や観光客等の安全確保を図る。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | ■当年度 □後年度(年度) | | | | | | |
| 実施方法 | ■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | 予算の状況 | H28年度 | H28年度(繰越) | H29年度 | H30年度 | R1年度 | |
| | | (a) 当初予算額 | 354,000 | — | 32,400 | 366,020 | 443,098 |
| | (b) 予算現額 | 487,250 | — | 32,400 | 366,020 | 443,098 | |
| | (c) 増減額(b-a) | 133,250 | — | 0 | 0 | 0 | |
| | (d) 繰越額 | — | 367,703 | — | — | — | |
| | A. 計(b+d) | 487,250 | 367,703 | 32,400 | 366,020 | 443,098 | |
| | B. 執行済額 | 119,547 | 363,741 | 32,400 | 363,227 | 424,952 | |
| | うち交付金充当額 | 95,637 | 290,193 | 25,920 | 290,581 | 339,961 | |
| | 次年度繰越額 | 367,703 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 執行率(%) (B/A) | 24.5% | 98.9% | 100.0% | 99.2% | 95.9% | |
| 予算の状況の説明 | 当初予定していた「開発行為変更図書作成委託業務」については、本市で変更図書の自主作成を行ったため、499千円の不用額が生じた。また、整備工事の入札残により1,647千円の不用額が生じた。その他、当初計画していた事業内容はすべて実施し、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。 | | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | R1活動目標(指標) | 達成状況 | | | | | |
| | | H30年度 | R1年度 | R2年度 | R3年度 | | |
| | ・造成工事 ・面整備 ・擁壁工事 ・管理施設工事(外灯、安全柵等) | 目標 | (整備工事の完了) | (整備工事の完了) | () | () | |
| | | 実績 | 整備工事の完了 | 整備工事の完了 | | | |
| ・用地購入 | 目標 | (1筆(566㎡)) | () | () | () | | |
| | 実績 | 1筆(566㎡) | | | | | |
| 達成状況説明 | ・造成、管理施設、舗装、植栽の整備工事について、それぞれ工事請負契約を締結して当初の計画どおり実施し、年度末に全ての工事が完了した。 | | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | R1成果目標(指標) | 基準値(年度) | R1年度 | R2年度 | R3年度 | 目標値(年度) | |
| | | 目標 | () | (80%以上) | () | () | () |
| | ・駐車場利用者の利便性が確保されたか(80%以上)を含め、当該駐車場のあり方をアンケート調査により検証する。 | 実績 | | 85.7% | | | |
| | | 目標 | () | (1回以上) | () | () | () |
| ・整備した駐車場を活用した防災訓練(1回/年)を実施することにより、本事業のあり方について検証する。 | 実績 | | 1回 | | | | |
| | 進捗状況説明 | ・令和元年度中に一部供用の区画を利用した団体等へアンケート調査を実施した結果、「以前のイベント開催時の駐車場利用と比較して利便性が良くなった。」との回答が約85.7%となり、駐車場利用者の利便性を確保することができた。 ・令和元年9月1日の防災の日に合わせて、整備した駐車場及び本市庁舎を活用した「防災カフェinなんじょう」を開催した。防災への知識を高めることを目的として開催され、消火、放水、濃煙、炊出し等の防災訓練や各展示会等を実施し、約1,500名の来場者数があった。当該駐車場と本市庁舎を一体的に活用した取り組みを実施することで市民や観光客等の防災に対する意識啓発を図ることができた。 | | | | | |

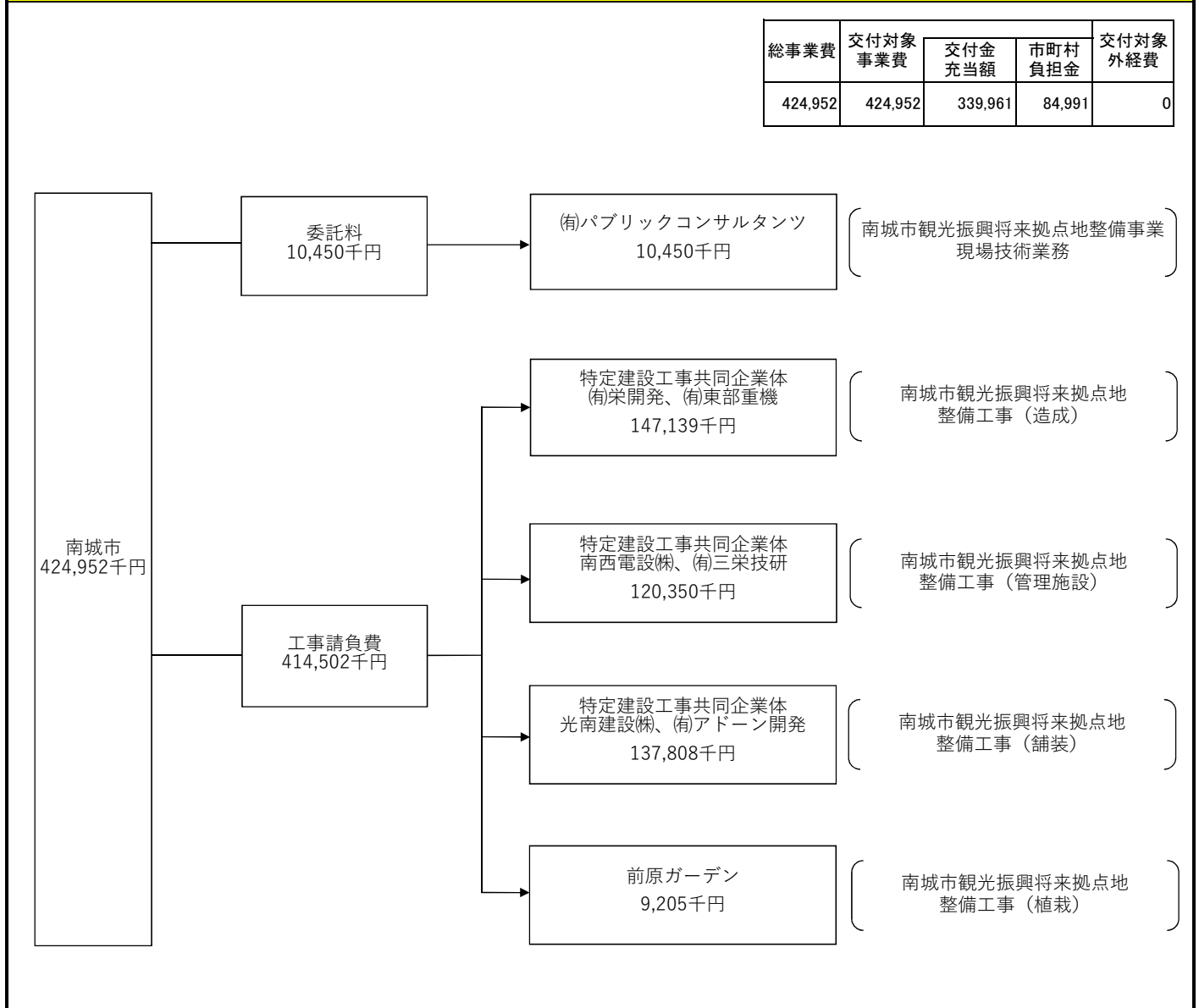
| | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|--|---|
| 取組の検証 | <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度の事業実施により本事業は完了することから、南城市公共駐車場利活用庁内検討委員会において、施設管理条例および規則の制定や、維持管理手法、イベントの誘致等の運用方法を検討した内容を踏まえ、令和2年度中に施設管理条例および規則の制定、運用方法を決定する必要がある。 平時の利活用については、本事業の目的であるイベント時の駐車場、イベントの開催拠点、災害時の避難場所としての活用と連動する必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 駐車場の維持管理および運用、イベントの誘致について、指定管理者制度の導入を含め、駐車場利用者の利便性向上ならびに効率的な活用の検討を行う。 平時の利活用について、イベント開催時の活用や災害等の緊急時にも迅速に対応できるようエリア分けを行い、かつ、市民や観光客等が利用しやすい環境を整える。 |

今後の取り組み方針

令和2年度に施設管理条例および規則を制定し、施設の効率的な管理運用を行う。また、駐車場を活用した既存イベントの継続的な開催、新たなイベントの誘致に取り組む。

本事業の目的であるイベント時の駐車場、イベント開催拠点、災害時の避難場所として活用することで観光振興および市民や観光客等の安全確保を図る。平時においては、南城市公共交通網形成計画に基づき交通結節点と連動したパーク&ライドの拠点としての活用および一般駐車場としての活用を検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



| 資金使途の流れ検証・評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|--------------|----|--------------------------------|---|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○委託及び工事事業者は、指名競争入札により選定しており、妥当であったと考えている。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | ○不用額は生じたが、事業費の5%以内であり適正な規模であった。 |
| | - | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。 |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

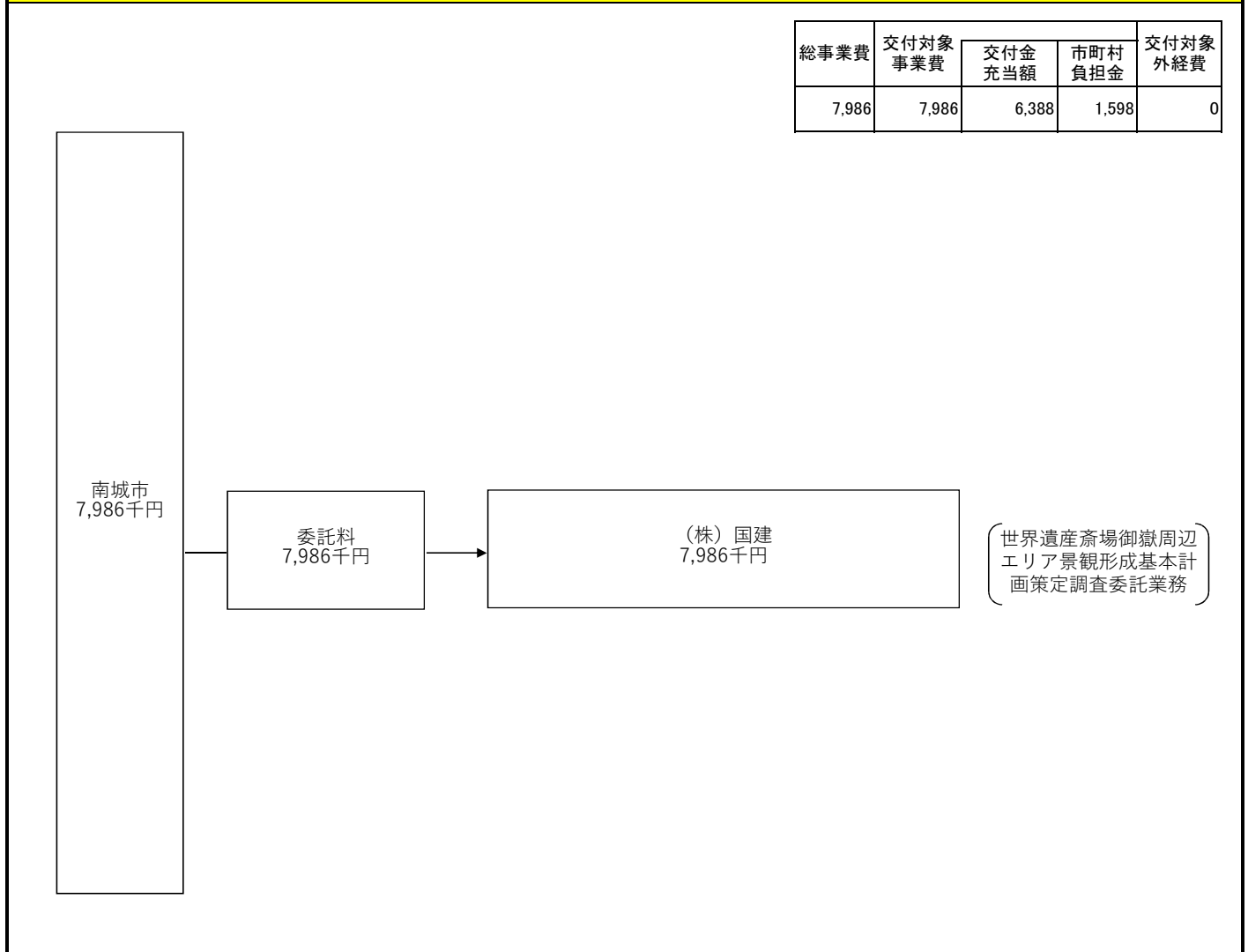
| | | | | | | | |
|--------------------------------------|--|--------------------|------------|--------------------|----------------------------|-------|-----------|
| 市町村名 | 南城市 | | | | | | |
| 令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 1-⑦ | 東御廻り等・体験交流受入整備強化事業 | | 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第3章-3-(2)-ア | | |
| 担当部課名 | 企画部 観光商工課 | 事業実施(予定)年度 | 平成27~令和3年度 | 沖縄振興基本方針該当箇所 | 国際的な沖縄観光ブランドの確立 Ⅲ-1-(1) | | |
| 事業内容 | 観光地として魅力的な景観形成を図るため、世界遺産斎場御嶽をはじめ、東御廻りに関するスポットの周辺整備等を行う。今年度は、世界遺産斎場御嶽周辺エリアの景観形成及び景観維持に係る計画を策定する。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | <input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R3年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R1年度 | R2年度 | |
| | 予算の状況 | (a)当初予算額 | 16,898 | 82,842 | | 7,863 | |
| | | (b)予算現額 | 16,898 | 82,842 | | 7,986 | |
| | | (c)増減額(b-a) | 0 | 0 | | 123 | |
| | | (d)繰越額 | - | - | | - | |
| | A.計(b+d) | 16,898 | 82,842 | | 7,986 | | |
| | B.執行済額 | 16,838 | 65,266 | | 7,986 | | |
| | うち交付金充当額 | 13,470 | 52,212 | | 6,388 | | |
| | 次年度繰越額 | 0 | 0 | | 0 | | |
| | 執行率(%) (B/A) | 99.6% | 78.8% | | 100.0% | | |
| 予算の状況の説明 | 消費税の増額に伴う事業間流用を行い、事業計画どおりに予算を執行した。 | | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | R1活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | |
| | | | H30年度 | R1年度 | R2年度 | R3年度 | |
| | 世界遺産斎場御嶽周辺エリアの景観形成及び景観維持に係る計画策定・関係者へのヒアリング | 目標 | () | (実施) | () | () | |
| | | 実績 | | 実施 | | | |
| | ・観光客ニーズ調査 | 目標 | () | (実施) | () | () | |
| | | 実績 | | 実施 | | | |
| | ・検討委員会の開催 | 目標 | () | (開催) | () | () | |
| | | 実績 | | 開催 | | | |
| | ・関係者会議の開催 | 目標 | () | (開催) | () | () | |
| | | 実績 | | 開催 | | | |
| 達成状況説明 | 世界遺産斎場御嶽周辺エリアの景観形成及び景観維持に係る計画策定のため、関係者へのヒアリング、観光客ニーズ調査、検討委員会の開催、関係者会議の開催を滞りなく実施した。 | | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | R1成果目標(指標) | | 基準値(年度) | H30年度 | R1年度 | R2年度 | 目標値(R3年度) |
| | 世界遺産斎場御嶽周辺エリア景観形成計画策定完了 | 目標 | () | () | (計画策定) | () | () |
| | | 実績 | | | 計画策定完了 | | |
| | 【R3成果目標】観光客を対象にアンケートを実施し、観光地として魅力的な景観となっているか(80%以上)を含め、本事業のあり方を検証する。 | 目標 | | | | | (80%以上) |
| 進捗状況説明 | 斎場御嶽の関係者(地域住民、観光協会、市役所)でワークショップを行い、それを学識経験者にフィードバックし、周辺エリアの景観形成計画を策定した。 | | | | | | |

| | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|---|--|
| 取組の検証 | 世界遺産齋場御嶽周辺エリア景観形成基本計画を策定し、聖地として、また世界遺産として誇りの持てる景観形成を図るための準備が整った。 今後は景観形成のコンセプトとして関係者会議・検討委員会で示された「祈りを感じる道」として、聖地にふさわしい沿道の整備を行っていく。 | 整備の際は、例えば単純な暑さ対策としての屋根を作るのではなく、緑による聖地らしい空間の創出などを念頭に進めていく必要がある。 |

今後の取り組み方針

本事業で策定した基本計画を基に、造園の知識やランドスケープ(景観)に詳しい専門家や齋場御嶽の関係者と協議を行いながら、聖地としてふさわしい沿道の整備を行っていく。また、休憩施設の利用状況を分析し、観光客の利便性向上及び齋場御嶽の魅力を高めるような機能強化をR3年度に実施する。併せて、本基本計画に則り、観光客の受入体制を維持するため、休憩施設周辺の定期的な点検や周辺環境の景観美化に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



| 資金の流点検、評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|-----------|----|--------------------------------|--|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○委託事業者は公募型プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は無く、適正な規模であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | |
| | - | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | ○ | 費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| 市町村名 | | 南城市 | | | | |
|--------------------------------------|--|--|--------|--------------------|-------------------------------------|-----------|
| 令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 1-⑧ | 南城市観光交通実施計画策定事業 | | 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第3章-3-(6)-ア | |
| 担当部課名 | 企画部 観光商工課 | 事業実施(予定)年度 | 令和元年度 | 沖縄振興基本方針該当箇所 | 沖縄のソフトパワーを活用した新事業・新産業の創出 Ⅲ-1-(1) | |
| 事業内容 | 観光客の市内交通に関する利便性の確保を図るため、ニーズ調査等を行い観光交通のあり方や公共交通の利用促進に向けた取組を定めた観光交通実施計画を策定する。 | | | | | |
| 効果発現年度 | <input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R2年度) | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | |
| 予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | 予算の状況 | R1年度 | R2年度 | R3年度 | | |
| | | (a)当初予算額 | 9,504 | | | |
| | | (b)予算現額 | 9,592 | | | |
| | | (c)増減額(b-a) | 88 | | | |
| | | (d)繰越額 | - | | | |
| | A. 計(b+d) | 9,592 | | | | |
| | B. 執行済額 | 9,592 | | | | |
| | うち交付金充当額 | 7,673 | | | | |
| | 次年度繰越額 | 0 | | | | |
| | 執行率(%) (B/A) | 100.0% | | | | |
| 予算の状況の説明 | 消費税の増額に伴う事業間流用を行い、概ね予定通り予算を執行することができた。 | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | R1活動目標(指標) | 達成状況 | | | | |
| | | R1年度 | R2年度 | R3年度 | | |
| | 有識者へのヒアリング | 目標 | (実施) | () | () | () |
| | | 実績 | 実施 | | | |
| | 来訪者の動態調査 | 目標 | (実施) | () | () | () |
| | | 実績 | 実施 | | | |
| | 首都圏及び外国人のニーズ調査 | 目標 | (実施) | () | () | () |
| | | 実績 | 実施 | | | |
| | 検討委員会の開催 | 目標 | (開催) | () | () | () |
| | | 実績 | 開催 | | | |
| 達成状況説明 | <ul style="list-style-type: none"> 4名の有識者に対し、観光交通の現状と課題及び目指す方向性について、ヒアリングを実施することができた。 「来訪者動態調査」や「首都圏及び外国人ニーズ調査」を実施し、南城市における観光交通の実態及びニーズを整理することができた。 委員7名による検討委員会を、4回開催することができた。 | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | R1成果目標(指標) | 基準値(年度) | R1年度 | R2年度 | R3年度 | 目標値(R2年度) |
| | | 目標 | () | (策定完了) | () | () |
| | 実績 | | 策定完了 | | | |
| | 【R2成果目標】 | 南城市観光交通実施計画において指標を設定し、観光客の市内交通に関する利便性確保に向けた取組の確実な実施に繋げる。 | 目標 | | | |
| 進捗状況説明 | <ul style="list-style-type: none"> 南城市観光交通実施計画書を作成することができた。 実施計画書では、本計画の進行を管理するための指標として、以下の4つを設定した。 ①観光交通の利便性向上による観光客の増加、②市民・観光客の移動手段に対する満足度、③市民・観光客の移動手段の分担率、④公共交通等の利用者数 | | | | | |

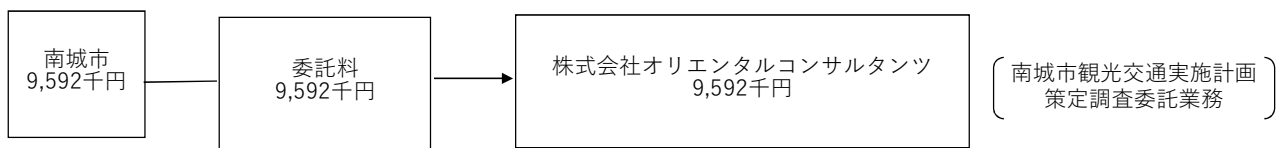
| | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|---|--|
| 取組の検証 | 調査の結果、観光の分野において公共交通がほとんど利用されていない現状が浮き彫りとなった。選択肢としてレンタカー以外の交通手段を観光客に提供する必要がある。 | <p>調査結果を踏まえて、持続的に活用される市内観光交通のあり方について検討する。</p> <p>①観光客だけでなく、地域住民にも利用してもらえるよう意識醸成及び利便性の向上を図る。 ②市内に点在する魅力ある資源(場所)を周遊・回遊するための新たな観光交通の導入を検討する。 ③ストレスフリーでシームレスな観光と交通のパッケージ化を検討する。 ④レンタカーでは体験できない楽しみ方に関する情報の見える化を推進する。</p> |

今後の取り組み方針

- ①本市の魅力やコースを発掘するイベント(「ポタうまーい」)を開催する。また、移動と観光のキャッシュレス対応に取り組む。
- ②市内の観光資源を結ぶ新たな周遊型観光交通の導入に向けた実証実験を行う。
- ③公共交通と連動した自転車観光の推進、モデルコースの構築及びプロモーションを実施する。
- ④観光交通に関する情報の見える化を推進するためのシステム開発(オープンデータ化)を検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

| 総事業費 | 交付対象事業費 | 交付金充当額 | | 交付対象外経費 |
|-------|---------|--------|-------|---------|
| | | 市町村負担金 | | |
| 9,592 | 9,592 | 7,673 | 1,919 | 0 |



| 資金の流点れ、評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|-----------|----|--------------------------------|--|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○委託事業者は公募型プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は無く、適正な規模であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | |
| | - | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| | | | | | | | |
|--------------------------------------|---|--|---------------|--------------------|---|--------|--------------|
| 市町村名 | 南城市 | | | | | | |
| 令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 2-① | 平和学習受入体制強化事業 | | 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第3章-4-(2)-ウ | | |
| 担当部課名 | 企画部 観光商工課 | 事業実施(予定)年度 | 平成25～令和2年度 | 沖縄振興基本方針該当箇所 | アジア・太平洋地域の安定と平和に資する平和・人権協力外交の展開 III-12 | | |
| 事業内容 | 糸数アブチラガマは、経年による崩落や周辺環境の変化による壕への影響が懸念されるため、来訪者の安全確保及び戦跡の保全のための工事を行い、沖縄戦の歴史の継承及び観光誘客を図る。 令和元年度は、ガマ内の保全対策工事を行う。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | <input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R3年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 () | | | | | | |
| 予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R1年度 | R2年度 | |
| | 予算の状況 | (a)当初予算額 | 20,283 | | 10,023 | 30,005 | |
| | | (b)予算現額 | 20,283 | | 10,023 | 30,005 | |
| | | (c)増減額(b-a) | 0 | | 0 | 0 | |
| | | (d)繰越額 | — | | — | — | |
| | | A.計(b+d) | 20,283 | | 10,023 | 30,005 | |
| | B.執行済額 | | 16,287 | | 9,396 | 17,215 | |
| | うち交付金充当額 | | 13,029 | | 7,516 | 13,772 | |
| | 次年度繰越額 | | 0 | | 0 | 0 | |
| | 執行率(%) (B/A) | | 80.3% | | 93.7% | 57.4% | |
| 予算の状況の説明 | | 事業申請段階では、3ヶ所保全工事を行う予定であったが、再度、協議した結果、今年度は1ヶ所のみとなったため、不用額が生じた。残りの2ヶ所については、1ヶ所は工事不要、もう1ヶ所はR2年度に行うこととなった。 | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | R1活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | |
| | | | H30年度 | R1年度 | R2年度 | R3年度 | |
| | 第1期保全対策工事の実施 | 目標 | (保全対策設計の実施) | (第1期保全対策工事の実施) | () | () | |
| | | 実績 | 保全対策設計の実施 | 第1期保全対策工事の実施 | | | |
| | | 目標 | () | () | () | () | |
| 実績 | | | | | | | |
| 達成状況説明 | 入口部分の第1期保全対策工事として、石積内部にコンクリートを充当し岩盤を支える工事および落石防止用の防護柵を設置する工事を実施した。 | | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | R1成果目標(指標) | | 基準値(年度) | H30年度 | R1年度 | R2年度 | 目標値(R3年度) |
| | 第1期保全対策工事の完了 | 目標 | () | (保全対策設計の完了) | (第1期保全対策工事の完了) | () | () |
| | | 実績 | | 保全対策設計の完了 | 第1期保全対策工事の完了 | | |
| | 【R3成果目標】年間来場者数:108,800人 | | 目標 | | | | (108,800人) |
| 進捗状況説明 | 入口部分の第1期保全対策工事が終わり、出口部分の第2期工事を残すのみとなった。事業が完了すれば安心安全にガマを見学することが出来るため、R3年度成果目標として年間来場者数108,800人達成を掲げている。 | | | | | | |

| 取組の検証 | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・工事期間中も、県内外から平和学習の一貫としてアブチラガマに多くの来訪者が訪れるため、来訪者の安全確保に配慮する必要がある。 ・工事期間中は案内ルートの一部が立ち入りできなくなるため、来訪者が見学できる範囲に制限が生じる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・来訪者を案内するルートについてあらかじめデモンストレーションを行い、工事期間中は、工事業者と来訪者の動線を分けるなど安全確保に努める。 ・パンフレットやデジタル画像を活用してルートの補足説明を行うとともに、工事完了後はホームページ等を活用した広報活動を行う。 |

今後の取り組み方針

・令和元年度はガマ入口部分の保全対策工事を行った。令和2年度も工事実施箇所の立ち入りを規制し、来場者の安全確保に配慮しながらガマ出口部分の保全対策工事を行い、事業を完了する。

・工事期間中はパンフレットや資料を活用して立ち入りできない箇所を補足説明し、壕の全体像について理解を深めてもらえるよう努めるとともに、工事完了後はホームページ・SNSを活用して安心安全な糸数アブチラガマを広報し、沖縄戦の歴史の継承及び戦跡を活用した観光誘客を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

| 総事業費 | 交付対象事業費 | 交付金充当額 | | 交付対象外経費 |
|--------|---------|--------|-------|---------|
| | | 市町村負担金 | | |
| 17,215 | 17,215 | 13,772 | 3,443 | 0 |



| 資金の流 れ 検 査 費 目 ・ 評 価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|--|----|--------------------------------|--|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○請負業者は指名競争入札方式で選定しており妥当である。 |
| | △ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | ○当年度の工事実施箇所の見直しに伴い、約43%の不用が生じている。 |
| | - | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○費目、用途については完了時の検査を実施しており、目的に即し必要なものに限定されている。 |
| | ○ | 費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| | | | | | | | |
|--|--|--|------------|----------|--------------------|----------------------------------|-----|
| 市町村名 | 南城市 | | | | | | |
| 令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 3-① | 優良繁殖牛導入支援事業 | | | 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第3章-3-(7)-ア | |
| 担当部課名 | 農林水産部 産業振興課 | 事業実施(予定)年度 | 平成26~令和3年度 | | 沖縄振興基本方針該当箇所 | おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 Ⅲ-1-(6) | |
| 事業内容 | 肉用牛繁殖農家の経営の安定化に向け、農家が生産する子牛の品質及び価格の向上を図るため、農家に対して優良繁殖雌牛を貸し付けるものに対して支援を行う。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | <input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | 予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d) | H27年度 | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R1年度 | |
| | | 20,000 | 20,000 | 20,000 | 25,000 | 25,000 | |
| | | 20,000 | 20,000 | 20,000 | 25,000 | 25,000 | |
| | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | - | - | - | - | - | |
| | B. 執行済額 | 19,113 | 19,699 | 19,129 | 22,727 | 22,074 | |
| | うち交付金充当額 | 15,290 | 15,759 | 15,303 | 18,181 | 17,659 | |
| | 次年度繰越額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 執行率(%) (B/A) | 95.6% | 98.5% | 95.6% | 90.9% | 88.3% | |
| | 予算の状況の説明 | 当初予定していた事業内容はすべて実施できた。不用額2,926千円については市場での牛の価格変動によるものである。 | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | R1活動目標(指標) | 達成状況 | | | | | |
| | | | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R1年度 | |
| | 優良母牛導入支援 | 目標 | (50頭) | (50頭) | (50頭) | (50頭) | |
| | | 実績 | 50頭 | 50頭 | 50頭 | 50頭 | |
| | | 目標 | () | () | () | () | |
| 実績 | | | | | | | |
| 達成状況説明 | 導入頭数目標の50頭導入を達成した。 | | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | R1成果目標(指標) | 基準値 (H28年度) | H30年度 | R1年度 | R2年度 | 目標値 (年度) | |
| | | | | | | | |
| | 導入した優良母牛から産まれる子牛とそうでない子牛との価格差の割合:113%以上 | 目標 | (104%) | (104%) | (113%) | () | () |
| | | 実績 | | 114.7% | 112.4% | | |
| | | 目標 | () | () | () | () | () |
| 実績 | | | | | | | |
| 進捗状況説明 | 導入した優良母牛から産まれる子牛とそうでない子牛との価格差の割合は112.4%となり、目標を達成することができなかった。 セリ平均価格 導入牛から産まれた子牛 (A) 743,385円(実績:342頭) 導入牛以外から産まれた子牛 (B) 661,333円(実績:2,882頭) (A)÷(B)=112.4% ※当年度に導入した優良母牛から産まれた子牛は販売までに時間を要するため、これまでに導入した優良母牛から産まれた子牛のセリ価格で実績を算出。 | | | | | | |

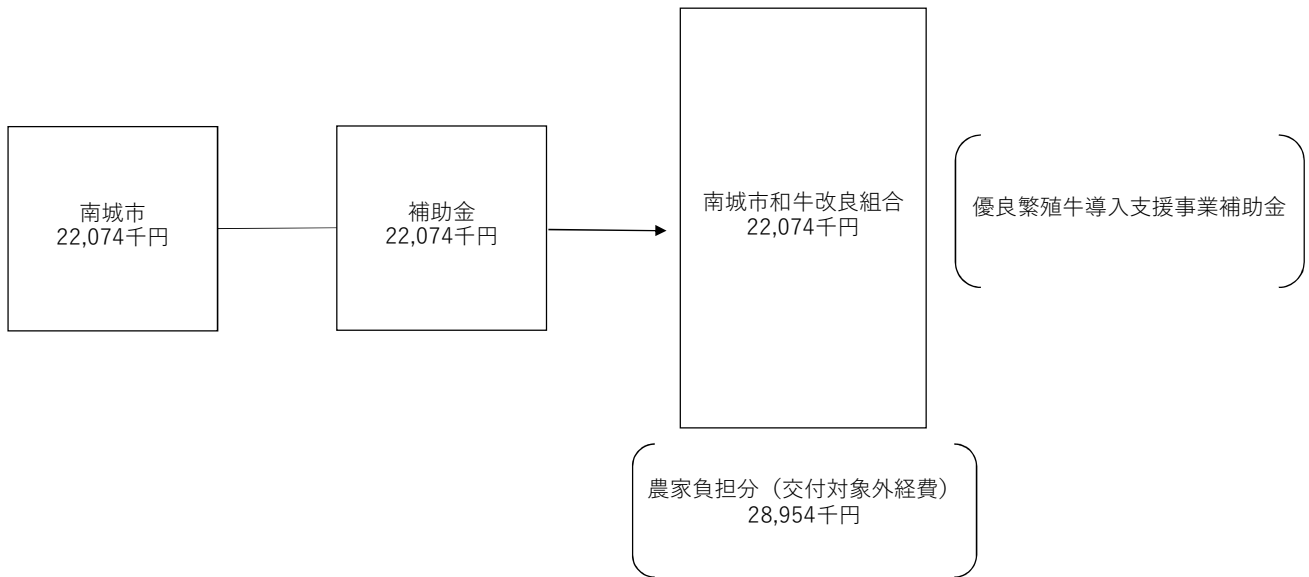
| 取組の検証 | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|--|--|
| | <p>・導入した優良母牛から産まれる子牛とそうでない子牛との価格差の割合が目標達成できなかった要因として、導入した優良母牛から産まれた子牛のセリ価格にバラつきがあるためだと考えられる。</p> | <p>・優良母牛から産まれた子牛のセリ価格のバラつき解消及び価格向上を図るため、飼養管理の方法等を共有できる場を作ることや、畜産農家への適切な管理指導を行う必要がある。</p> |

今後の取り組み方針

・農家や関係機関と連携し、セリ価格の高い農家から飼養管理の方法等を共有できる講習会(意見交換会)を開催する。また、畜産農家への適切な管理指導ならびに導入支援を行い、和牛繁殖基盤の改良、強化に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

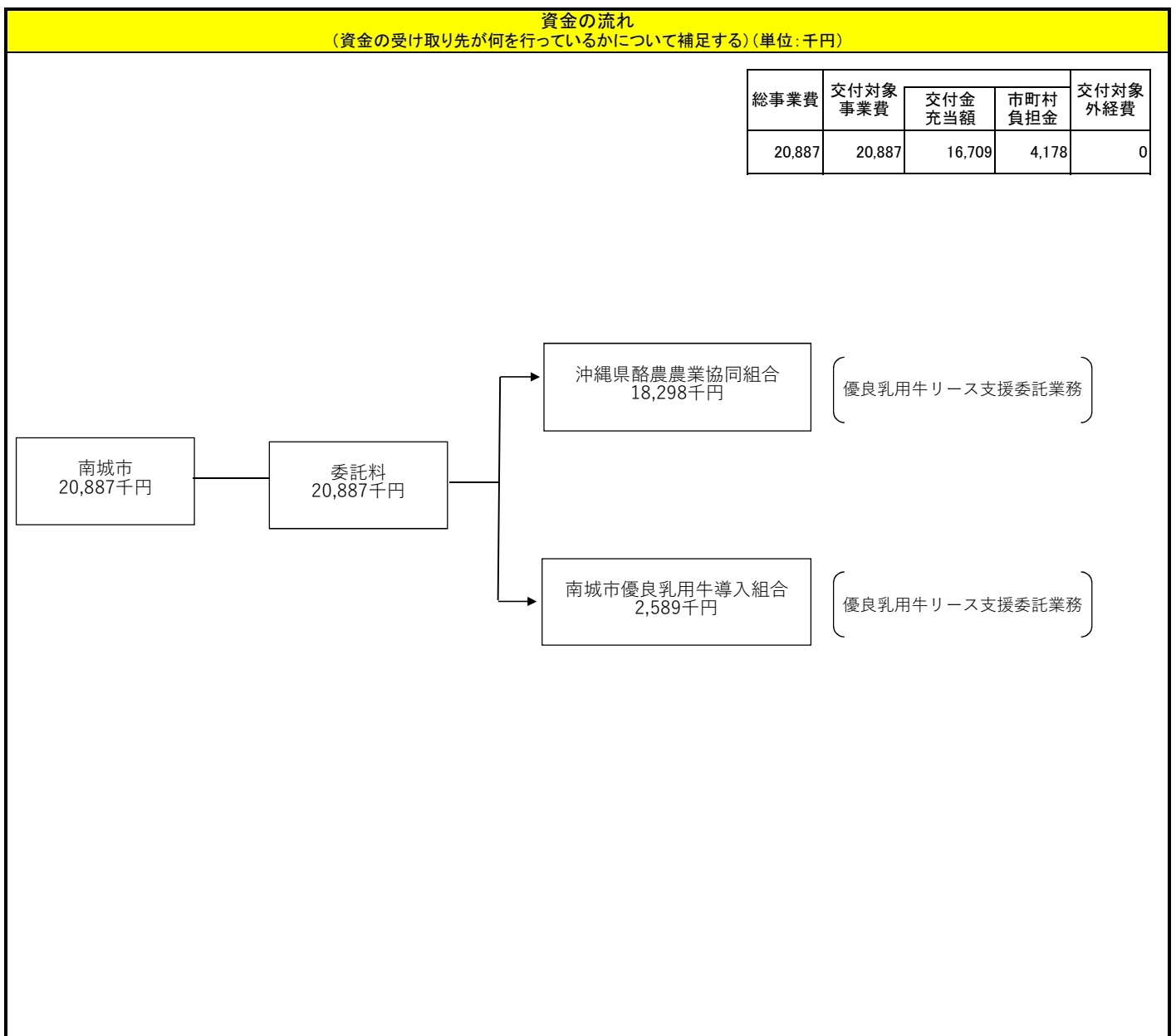
| 総事業費 | 交付対象事業費 | 交付金充当額 | | 交付対象外経費 |
|--------|---------|--------|-------|---------|
| | | 市町村負担金 | | |
| 51,028 | 22,074 | 17,659 | 4,415 | 28,954 |



| 資金の流点検・評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|-----------|----|--------------------------------|---|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○補助金交付団体は、市内農家の経営実態を十分に把握し、生産技術の向上や経営指導等にも携わっているため妥当と考える。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | ○市場での牛の価格変動により不用額が生じたが、当初予定していた事業内容はすべて実施し、適切な規模だった。 |
| | ○ | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○受益者である農家は総事業費の5割以上を負担しており、事業内容から判断して妥当であると考えられる。 |
| | ○ | 費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○事業費の確定時において検査、確認をしており、用途は目的に則し、必要な物に限定されている。 |

| 市町村名 | | 南城市 | | | | | |
|--|---|--|----------------|----------------|------------------------|----------------------------------|-------------------|
| 令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 3-② | 優良乳用牛リース支援事業 | | | 沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 | 第3章-3-(7)-ア | |
| 担当部課名 | 農林水産部 産業振興課 | 事業実施 (予定)年度 | 平成27~令和元年度 | | 沖縄振興基本方針 該当箇所 | おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 Ⅲ-1-(6) | |
| 事業内容 | 酪農家の経営の安定化に向け、乳用牛の生産乳量の増加と乳質の向上を図るため、酪農家に対して優良乳用牛を貸し付けるものに対し支援を行う。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | <input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | 予算の状況 | | H27年度 | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R1年度 |
| | | (a) 当初予算額 | 20,000 | 20,000 | 20,000 | 25,000 | 25,000 |
| | | (b) 予算現額 | 19,432 | 20,000 | 20,000 | 25,000 | 25,000 |
| | | (c) 増減額(b-a) | ▲ 568 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | (d) 繰越額 | — | — | — | — | — |
| | A. 計(b+d) | | 19,432 | 20,000 | 20,000 | 25,000 | 25,000 |
| | B. 執行済額 | | 19,432 | 19,954 | 19,973 | 24,423 | 20,887 |
| | うち交付金充当額 | | 15,545 | 15,963 | 15,978 | 19,538 | 16,709 |
| | 次年度繰越額 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 執行率(%) (B/A) | | 100.0% | 99.8% | 99.9% | 97.7% | 83.5% |
| 予算の状況の説明 | | 当初予定していた事業内容はすべて実施できた。不用額4,113千円については市場での牛の価格変動によるものである。 | | | | | |
| 活動目標 (指標) 及び達成状況 | R1活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | |
| | | | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R1年度 | |
| | 優良乳用牛導入支援 | 目標 | (50頭) | (50頭) | (50頭) | (50頭) | |
| | | 実績 | 52頭 | 50頭 | 50頭 | 50頭 | |
| | | 目標 | () | () | () | () | |
| 実績 | | | | | | | |
| 達成状況説明 | 導入頭数目標の50頭導入を達成した。 | | | | | | |
| 成果目標 (指標) 及び進捗状況 | R1成果目標(指標) | | 基準値 (H28年度) | H30年度 | R1年度 | R2年度 | 目標値 (年度) |
| | 生産乳量(1頭):7,860kg以上/年 | 目標 | (7,824kg以上) | (7,917kg以上) | (7,860kg以上) | () | () |
| | | 実績 | | 7,380kg | 7,988kg | | |
| | 乳質(脂肪率):3.89%以上 | 目標 | (3.89%以上) | (3.91%以上) | (3.89%以上) | () | () |
| | | 実績 | | 3.91% | 3.87% | | |
| 進捗状況説明 | <ul style="list-style-type: none"> 生産乳量目標7,860kg以上に対して実績が7,988kgとなり、目標値を達成できた。 乳質(脂肪率)の向上3.89%以上に対して実績が3.87%となり、目標値を達成できなかった。 | | | | | | |

| | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|--|---|---|
| 取組の検証 | <p>(生産乳量の増加) 頭数及び全体乳量も増加し、目標に定めた1頭あたり平均乳量を達成することができた。優良な乳用牛の導入(更新)を支援できたことが目標達成の要因と考えられる。</p> <p>(乳質(脂肪率)の向上) 乳質は3.7%以上が最高ランクとされており、乳質(脂肪率)の向上3.89%以上に対して実績が3.87%と、目標の乳質を達成できなかったが、目標に近い数値で最高ランクは維持できている。</p> | <p>(生産乳量の増加) 生産乳量の増加に繋がるよう、今後も継続して優良乳用牛の導入(更新)支援を行っていく。</p> <p>(乳質(脂肪率)の向上) 脂質(脂肪率)を維持していくために、関係機関と連携して飼養管理指導を行う。</p> |
| 今後の取り組み方針 | | |
| <p>農家や関係機関と連携をとり、成果を検証できるデータの収集と蓄積に努める。今後も安定した乳量を確保できるよう農家への適切な飼養管理指導ならびに導入(更新)支援を行い農家の意欲向上、乳用牛経営基盤の強化に取り組む。</p> | | |



| 資金の 使途の 流れ、 点検、 評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|--------------------------------|----|--------------------------------|--|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | <p>○委託業者は、市内農家の経営実態を十分に把握し、生産技術の向上や経営指導等にも携わっているため妥当と考える。</p> <p>○不用額が生じたが、市場の牛の価格変動によるものであり、当初予定していた事業内容は全て実施し、適正な規模であった。</p> <p>○事業費の確定時において検査、確認をしており、使途は目的に即し、必要なものに限定されている。</p> |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | |
| | — | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| | | | | | | | |
|--|--|-----------------------|-------------------|--------------------|----------------|--------------------|-----|
| 市町村名 | 南城市 | | | | | | |
| 令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 4-① | 低炭素なまちづくり推進事業 | | 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第3章-1-(3)-ウ | | |
| 担当部課名 | 市民部 生活環境課 | 事業実施(予定)年度 | 平成28~令和3年度 | 沖縄振興基本方針該当箇所 | 低炭素都市づくりの推進 | | |
| 事業内容 | 防犯灯の照明器具を省エネ型のLED照明に切り替え、温室効果ガスの排出削減を図る。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | <input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R1年度 | R2年度 | |
| | 予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d) | | 16,827 | 42,519 | 68,024 | 18,900 | |
| | | | 16,827 | 42,519 | 53,461 | 18,900 | |
| | | | 0 | 0 | ▲ 14,563 | 0 | |
| | | | - | - | - | - | |
| | B. 執行済額 | 16,686 | 30,403 | 51,132 | 18,884 | | |
| | うち交付金充当額 | 13,348 | 24,322 | 40,905 | 15,107 | | |
| | 次年度繰越額 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 執行率(%) (B/A) | 99.2% | 71.5% | 95.6% | 99.9% | | |
| | 予算の状況の説明 | 当初予定通りの予算執行をすることができた。 | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | R1活動目標(指標) | 達成状況 | | | | | |
| | | | H29年度 | H30年度 | R1年度 | R2年度 | |
| | 防犯灯をLED照明器具へ切り替え | 目標 | (LED照明器具への切り替え) | (LED照明器具への切り替え) | (約350本) | () | |
| | | 実績 | LED照明器具への切り替え | LED照明器具への切り替え | 371本 | | |
| | | 目標 | () | () | () | () | |
| | | 実績 | | | | | |
| 達成状況説明 | 補助金交付団体が保有する防犯灯について、予算の範囲内での補助としており、当初350灯の切替を予定していたが、補助金交付団体と施工業者の調整によるLED切替単価削減等により、371灯の切替を行った。 | | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | R1成果目標(指標) | 基準値(年度) | H29年度 | H30年度 | R1年度 | 目標値(年度) | |
| | | | () | (8,411kg減) | (120,000kg減) | (36,000kg-CO2/年) | () |
| | LEDに切り替える防犯灯による二酸化炭素排出量の削減効果 | 目標 | () | (8,411kg減) | (120,000kg減) | (36,000kg-CO2/年) | () |
| | | 実績 | | 50,965kg減 | 151,674kg減 | 57,473kg-CO2/年 | |
| | | 目標 | () | () | () | () | () |
| | | 実績 | | | | | |
| 進捗状況説明 | ・二酸化炭素排出量の削減目標値36,000kgに対し、実績値は57,473kgとなり、目標を上回った。 ・地球温暖化対策の意識啓発を図るため、例年通り本事業成果を市広報誌やホームページに掲載した。また、南城市地球温暖化対策実行計画における対象施設についても、排出された温室効果ガス排出量をホームページで公表したほか、環境省の地球温暖化対策に資する取り組み(クールチョイス)を紹介し、これまで以上の意識啓発活動を行った。 | | | | | | |

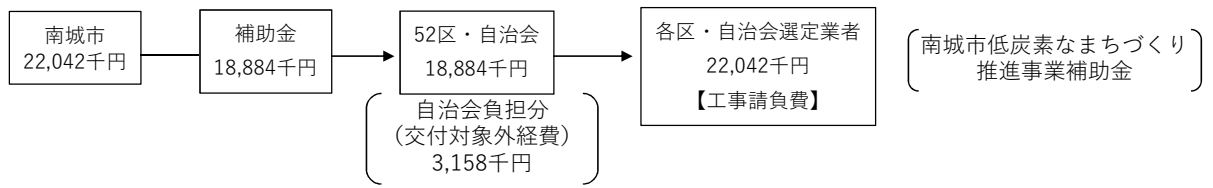
| 取組の検証 | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|---|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> 被補助団体が行う補助金申請に係る各書類手続きにおいて、提出書類の不備が多く、修正に時間を要したため、予定よりも事業完了が遅滞した。 | <ul style="list-style-type: none"> 補助金申請に係る各書類手続きの煩雑さを要因とする事業の遅れを解消し、被補助団体にとって使い勝手のよい事業となるよう検討する。 |

今後の取り組み方針

・補助金申請に係る各書類手続きを見直し、提出書類の簡略化に務め、事業の早期完了を図る。
 また、被補助団体の代表者が変わるため、書類不備を頻発する事象も見受けられることから、被補助団体代表者に対し、確実な引継ぎを行うよう指導し、事業の早期完了を図る。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

| 総事業費 | 交付対象事業費 | 交付金充当額 | | 交付対象外経費 |
|--------|---------|--------|-------|---------|
| | | 市町村負担金 | 交付金 | |
| 22,042 | 18,884 | 15,107 | 3,777 | 3,158 |



| 資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|---------------------------------------|----|--------------------------------|--|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○補助金については、各自治会へ周知を行い、希望する自治会に対し補助を行った。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | ○予算規模については、予算執行率99.9%であり、適正な規模と判断した。 |
| | ○ | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○受益者負担については、各自治会において総事業費の1割及び電力申請料等の補助対象外経費を負担しており、他市町村における同様事業における負担割合と比較しても妥当であった。 |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○費目、使途については、完了検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。 |

| 市町村名 | | 南城市 | | | | | |
|--------------------------------------|---|--|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 5-① | | 学習支援員配置事業 | | 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第3章-5-(3)-ア | |
| | 担当部課名 | | 教育部 教育指導課 | 事業実施(予定)年度 | 平成25~令和3年度 | 沖縄振興基本方針該当箇所 | 確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1) |
| 事業内容 | 児童生徒の学力に応じた個々の学習指導を行うため、学習支援員を配置し、学力の向上を図る。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | <input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | | | H27年度 | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R1年度 |
| | 予算の状況 | (a) 当初予算額 | 17,334 | 17,334 | 18,480 | 17,640 | 17,640 |
| | | (b) 予算現額 | 14,886 | 17,334 | 15,848 | 17,640 | 17,640 |
| | | (c) 増減額(b-a) | ▲ 2,448 | 0 | ▲ 2,632 | 0 | 0 |
| | | (d) 繰越額 | - | - | - | - | - |
| | A. 計(b+d) | | 14,886 | 17,334 | 15,848 | 17,640 | 17,640 |
| | B. 執行済額 | | 14,886 | 14,139 | 15,677 | 12,506 | 14,650 |
| | うち交付金充当額 | | 11,908 | 11,311 | 12,541 | 10,005 | 11,720 |
| | 次年度繰越額 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 執行率(%) (B/A) | | 100.0% | 81.6% | 98.9% | 70.9% | 83.0% |
| 予算の状況の説明 | | 年度当初において、予定通り配置できたが、支援員1名が年度途中で代替教員として雇用されることとなったため、新たな支援員を配置するまでに時間を要した。また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため臨時休校となった影響もあり、2,990千円の不用額が生じたが、概ね予定通り事業を実施することができた。 | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | R1活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | |
| | | | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R1年度 | |
| | 市立8小学校へ学習支援員8名配置 | 目標 | (8小学校 学習支援員8名) | (8小学校 学習支援員8名) | (8小学校 学習支援員8名) | (8小学校 学習支援員8名) | |
| | | 実績 | 8小学校 学習支援員8名 | 8小学校 学習支援員8名 | 8小学校 学習支援員延べ9名 | 8小学校 学習支援員延べ9名 | |
| 市立4中学校へ学習支援員4名配置 | 目標 | (4中学校 学習支援員4名) | (4中学校 学習支援員4名) | (4中学校 学習支援員4名) | (4中学校 学習支援員4名) | | |
| | 実績 | 4中学校 学習支援員4名 | 4中学校 学習支援員4名 | 3中学校 学習支援員3名 | 4中学校 学習支援員延べ5名 | | |
| 達成状況説明 | | 年度当初より市内の8小学校及び4中学校へ学習支援員各1名を配置することができたが、1小学校については、本務教員の休職により支援員が代替教員として雇用されることとなったため、新たな支援員を配置するまでに約5ヶ月の時間を要した。その他の小・中学校は目標どおり支援員を配置することができた。 | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | R1成果目標(指標) | | 基準値(年度) | H29年度 | H30年度 | R1年度 | 目標値(年度) |
| | 沖縄県学力到達度調査における県平均正答率の差 小学校:県平均以上 | 目標 | () | (県平均以上) | (県平均以上) | (県平均以上) | () |
| | | 実績 | | 県平均 64.7 小学校 64.0 △0.7 | 県平均 61.1 小学校 58.4 △2.7 | 県平均 59.4 小学校 58.5 △0.9 | |
| | 沖縄県学力到達度調査における県平均正答率の差 中学校:県平均以上 | 目標 | () | (県平均以上) | (県平均以上) | (県平均以上) | () |
| 実績 | | | 県平均 47.4 中学校 47.1 △0.3 | 県平均 50.2 中学校 51.9 1.7 | 県平均 54.3 中学校 54.0 △0.3 | | |
| 進捗状況説明 | | 沖縄県学力到達度調査を県平均と比較すると小学校では、△0.9ポイント、中学校では△0.3ポイントと県平均には届かず、目標は未達成となった。 中学校においては、5校中1校が県平均を上回ったものの4校は県平均に届かなかった。 小学校においては、9校中3校のみが、県平均を上回ったものの6校は県平均に届かなかった。 | | | | | |

| | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|---|--|
| 取組の検証 | <ul style="list-style-type: none"> ・中学校においては、5校中4校が県平均を下回り、目標を達成することができなかった。特に、2年生の数学が△2.0ポイント、英語が△1.8ポイント県平均を下回っており、平均値を下げる結果となっている。 また、小学校においては、9校中3校のみが、県平均を上回ったものの6校は県平均に届かず、目標は未達成となった。特に、3年生の国語が△2.4ポイント、算数が△3.6ポイント、6年生の算数が△1.9ポイント県平均を下回っており、平均値を下げる結果となっている。 ・支援員が年度途中で退職すると、新たな支援員をすぐに配置(確保)できない状況がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県学力到達度調査の結果を受けて、小・中学校における基礎学力の定着に向けた取り組み方を見直す必要がある。 また、平均値を下げる要因となった科目について、更にきめ細やかな学習指導及び個別指導を行い、通常の授業についていけない児童・生徒の個々の能力に応じた適切な学習支援の方法のあり方についても見直す必要がある。 ・配置予定人員の確保に向け、待遇面の改善を検討する必要がある。 |

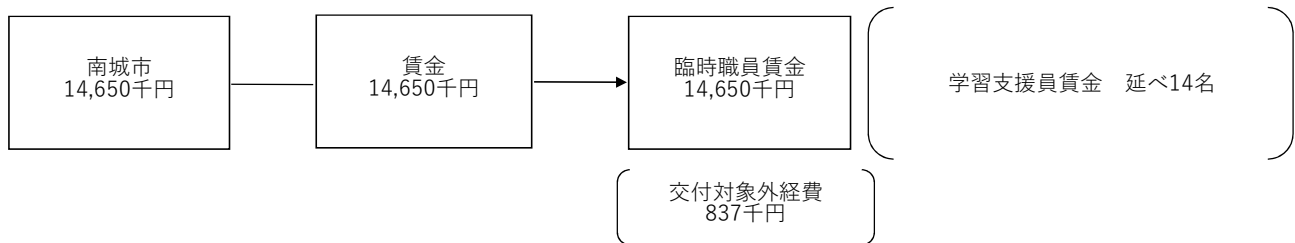
今後の取り組み方針

- ・基礎学力の定着に向け、担当教諭や学年主任等と連携を密にし、学力の低下が見られる児童・生徒の個々の能力に応じた適切な学習支援に取り組んでいく。また、今後も効果的な支援を行っていくために、学力向上に向けて効果のあった方法・事例等について研修会ならびに情報交換を行い、各学校の取り組みの工夫改善を行う。
- ・支援員の配置予定人員確保に向け、通勤手当等を支給するなど待遇面の改善を図るとともに、学校規模に応じた効果的な配置人数の検討も含め、人事担当課との連携を強化する。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

| 総事業費 | 交付対象事業費 | 交付金充当額 | 市町村負担金 | 交付対象外経費 |
|--------|---------|--------|--------|---------|
| 15,487 | 14,650 | 11,720 | 2,930 | 837 |



| 資金の 用途の 流れ、 評価 ・ 費目 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|------------------------------------|----|--------------------------------|--|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○学習支援員は公募により面接や資格、経験等を考慮し、南城市臨時職員の任用等に関する規則に準じて任用しており妥当である。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | ○欠員が生じた学校に支援員を配置するまでに時間を要したことや、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため臨時休校となった影響もあり、不用額は出ているが、概ね適正配置することができ、予算規模は適正な規模であった。 |
| | — | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○費目・使途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認しており、適正であった。 |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| 市町村名 | | 南城市 | | | | | |
|--|--|---|------------------------------|--------------------|--------------|---------------------|---------|
| 令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 5-② 特別支援教育支援員配置事業 | | | 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第3章-5-(3)-ウ | | |
| 担当部課名 | 教育部 教育指導課 | 事業実施(予定)年度 | 平成25~令和3年度 | | 沖縄振興基本方針該当箇所 | 時代に対応する魅力ある学校づくりの推進 | |
| 事業内容 | 特別な支援を要する園児・児童・生徒に対応した支援を行うため、特別支援教育支援員を配置し、学校生活や学習上の困難の改善を図る。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | <input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | | | H27年度 | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R1年度 |
| | 予算の状況 | (a) 当初予算額 | 52,504 | 60,644 | 73,663 | 74,955 | 74,955 |
| | | (b) 予算現額 | 43,053 | 60,644 | 73,663 | 74,955 | 74,955 |
| | | (c) 増減額(b-a) | ▲ 9,451 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | (d) 繰越額 | — | — | — | — | — |
| | A. 計(b+d) | | 43,053 | 60,644 | 73,663 | 74,955 | 74,955 |
| | B. 執行済額 | | 42,830 | 52,506 | 58,333 | 62,548 | 54,109 |
| | うち交付金充当額 | | 34,264 | 42,004 | 46,666 | 50,038 | 43,287 |
| | 次年度繰越額 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 執行率(%) (B/A) | | 99.5% | 86.6% | 79.2% | 83.4% | 72.2% |
| 予算の状況の説明 | | 支援員について、配置計画に基づいた目標人数を確保できなかったこと、また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため臨時休校となった影響もあり、20,846千円の不用額が生じた。 | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | R1活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | |
| | | | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R1年度 | |
| | 5幼稚園:特別支援教育支援員12名配置 | 目標 | (9名) | (10名) | (12名) | (12名) | |
| | | 実績 | 13名 | 延べ13名 | 延べ14名 | 延べ12名 | |
| | 8小学校:特別支援教育支援員36名配置 | 目標 | (32名) | (37名) | (38名) | (36名) | |
| | | 実績 | 31名 | 延べ41名 | 延べ42名 | 延べ32名 | |
| | 4中学校:特別支援教育支援員6名配置 | 目標 | (特別支援教育支援員1名 障害児ヘルパー5名) | (6名) | (4名) | (6名) | |
| | | 実績 | 特別支援教育支援員5名 | 6名 | 4名 | 延べ6名 | |
| 達成状況説明 | 年度当初の目標数確保が出来なかったことや、年度途中での離職などがあったが、その都度、広く募集を行ったことで特別支援教育支援員配置計画に基づき、概ね適正な配置による支援を行うことができた。 | | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | R1成果目標(指標) | | 基準値(年度) | H30年度 | R1年度 | R2年度 | 目標値(年度) |
| | 特別支援教育支援員の対応への満足度(80%以上)を含め、保護者へのアンケートにより本事業のあり方について検証する。 | 目標 | () | (80%以上) | (80%以上) | () | () |
| | | 実績 | | 82.2% | 88.5% | | |
| | | 目標 | () | () | () | () | () |
| | | 実績 | | | | | |
| | 進捗状況説明 | 学級担任等との密な連携によりきめ細やかで適切な支援を行えたことで、学習面や学校生活面でのサポート体制の強化に繋がり、より良い変化が見られ、保護者へのアンケートでは88.5%から支援員の対応に満足しているとの結果を得ることができ、目標値を達成した。 | | | | | |

| | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|---|---|
| 取組の検証 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中学校に在籍する特別な支援を要する園児・児童・生徒に対し支援員を配置し、担任教諭等との連携により適切な対応を行ったことで、障害から生ずる個々の困り感を克服し、落ち着いて学習活動に取り組めるようになるなど自立を促すことが出来た。成果目標である保護者の満足度も前年度を6.3%上回っており、今後も成長段階及び個々の実態に応じた適切な対応等、充実した特別支援教育への取り組みが必要である。 ・支援を要する園児・児童・生徒が年々増加傾向にあり、年度当初の配置計画どおりに支援員が配置(確保)できない状況がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・対象園児・児童・生徒の増加に対応しつつ、より質の高い特別支援教育が行えるよう新たな支援方法や研修の充実に取り組むとともに、保護者や各学校の特別支援コーディネーターとの連携を強化する。 ・年度当初から計画された支援員を配置(確保)できるよう、待遇面の改善を検討する必要がある。 |

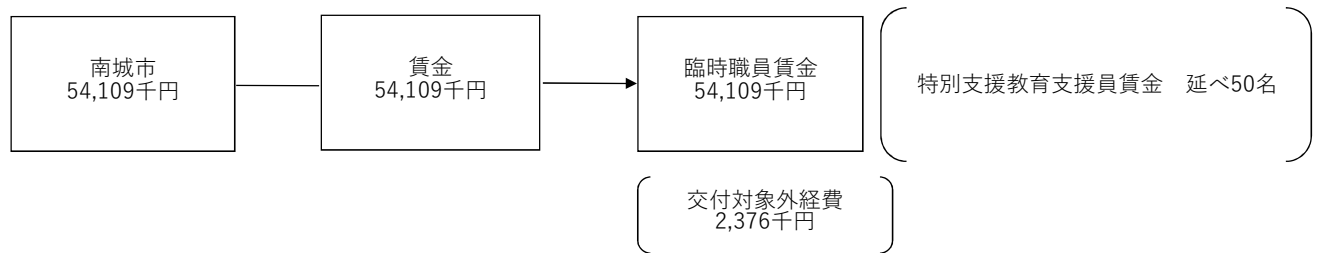
今後の取り組み方針

・より質の高い教育を行うため、特別支援教育支援員連絡会における研修内容の充実化を図るとともに、支援を要する児童・生徒向けに、認知能力強化のためのトレーニング等を部分的に実施する。また、対象園児・児童・生徒の保護者と共通理解を図る場を設けるほか、各学校の特別支援コーディネーターとの連携をより強化し、個々の実態に応じた適切な対応を行っていく。

・計画された支援員を配置できるよう、通勤手当等を支給するなど待遇面の改善を図るとともに、人事担当課との連携を強化する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

| 総事業費 | 交付対象事業費 | 交付金充当額 | | 交付対象外経費 |
|--------|---------|--------|--------|---------|
| | | 市町村負担金 | | |
| 56,485 | 54,109 | 43,287 | 10,822 | 2,376 |



| 資金の 使途の 流れ、 評価、 費目 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|--------------------------------|----|--------------------------------|---|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○支援員は応募者を面接により選定し、南城市臨時職員の任用等に関する規則に準じて任用しており妥当である。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | ○支援員を年度当初に目標数の配置ができなかったことや新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため臨時休校となった影響もあり、不用額は出ているが、概ね適正配置することができ、予算規模は適正な規模であった。 |
| | — | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○費用・使途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。 |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

| 市町村名 | | 南城市 | | | | | |
|--------------------------------------|--|--|---------------------------|---------------------------------|-----------------------------|----------------------------|---------|
| 令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 6-① | なんじょう歴史文化保存継承事業 | | | 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第3章-1-(4)-ア | |
| 担当部課名 | 教育部 文化課 | 事業実施(予定)年度 | 平成24～令和3年度 | | 沖縄振興基本方針該当箇所 | 沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり | |
| 事業内容 | 地域の文化財や伝統行事、沖縄戦に関することなど、本市の歴史・文化について調査研究・整理した図書を作成し、活用することで、歴史・文化の継承を図る。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | <input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | | | H27年度 | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R1年度 |
| | 予算の状況 | (a) 当初予算額 | 26,934 | 28,679 | 29,553 | 15,627 | 25,315 |
| | | (b) 予算現額 | 25,282 | 28,679 | 29,553 | 15,627 | 25,315 |
| | | (c) 増減額(b-a) | ▲1,652 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | (d) 繰越額 | — | — | — | — | — |
| | | A. 計(b+d) | 25,282 | 28,679 | 29,553 | 15,627 | 25,315 |
| | B. 執行済額 | | 24,128 | 25,513 | 27,245 | 13,354 | 21,860 |
| | うち交付金充当額 | | 19,302 | 20,410 | 21,795 | 10,683 | 17,488 |
| | 次年度繰越額 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 執行率(%) (B/A) | | 95.4% | 89.0% | 92.2% | 85.5% | 86.4% |
| 予算の状況の説明 | | 嘱託職員報酬の残や、専門委員会の調査回数減による報償費の残などにより、3,455千円の不用額が生じた。 | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | R1活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | |
| | | | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R1年度 | |
| | 『資料集 戦争』:会議(4回)、刊行(400部) | 目標 | (「資料集 戦争」5回) | (「資料集 戦争」5回) | (『戦争』会議4回、原稿執筆) | (『資料集 戦争』:会議(4回)、刊行(400部)) | |
| | | 実績 | 「資料集 戦争」5回 | 「資料集 戦争」6回 | 『戦争』会議3回、調査12回、原稿執筆 | 『戦争』会議(3回)、刊行(400部) | |
| | 『民俗』:会議(2回)、原稿執筆 | 目標 | 「民俗」検討会議5回(会議、調査・情報収集12回) | 「民俗」検討会議2回(回、会議・調査・情報収集5回) | 『民俗』会議2回、検討会議3回、調査・資料収集100回 | (『民俗』:会議(2回)、原稿執筆) | |
| 実績 | | 「民俗」検討会議3回、会議、調査・情報収集6回 | 「民俗」検討会議2回、会議・調査・情報収集7回 | 『民俗』会議2回、検討会議0回、調査・資料収集27回、原稿執筆 | 『民俗』:会議(1回)、原稿執筆 | | |
| 学習会:(1回) | 目標 | () | () | () | (学習会:(1回)) | | |
| | 実績 | / | | | 中止 | | |
| 達成状況説明 | | ・『資料集 戦争』については、専門委員会を4回実施の予定であったが、3回実施で議事をとりまとめることができた。原稿の校正作業、事務局による補足調査などを行い、『南城市の沖縄戦 資料編』として400部を刊行した。 ・『民俗』については、専門委員会を2回実施の予定であったが、1回実施で当年度分の議事をとりまとめることができた。また、委員による5地域の原稿執筆を完了した。 ・学習会については『南城市の沖縄戦 資料編』の刊行記念シンポジウムを開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とし、代わりにパネルの展示会を庁舎内で開催した。 また、一般の方向けの学習会とは別に、市内中学校の生徒向けに本書に掲載している戦争体験の証言者を招いた平和学習会を実施した。 | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | R1成果目標(指標) | | 基準値(年度) | R1年度 | R2年度 | R3年度 | 目標値(年度) |
| | | | | (30人以上) | () | () | () |
| | 本事業の調査成果を活用した学習会の参加人数:30人以上/年 | | 目標 | () | 中止 | () | () |
| 進捗状況説明 | | 学習会については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり、目標を達成することができなかった。ただし、本事業の調査結果を活用し、市内中学校と連携して本書に掲載している戦争体験の証言者を招いた平和学習会を企画・実施することができた。 | | | | | |

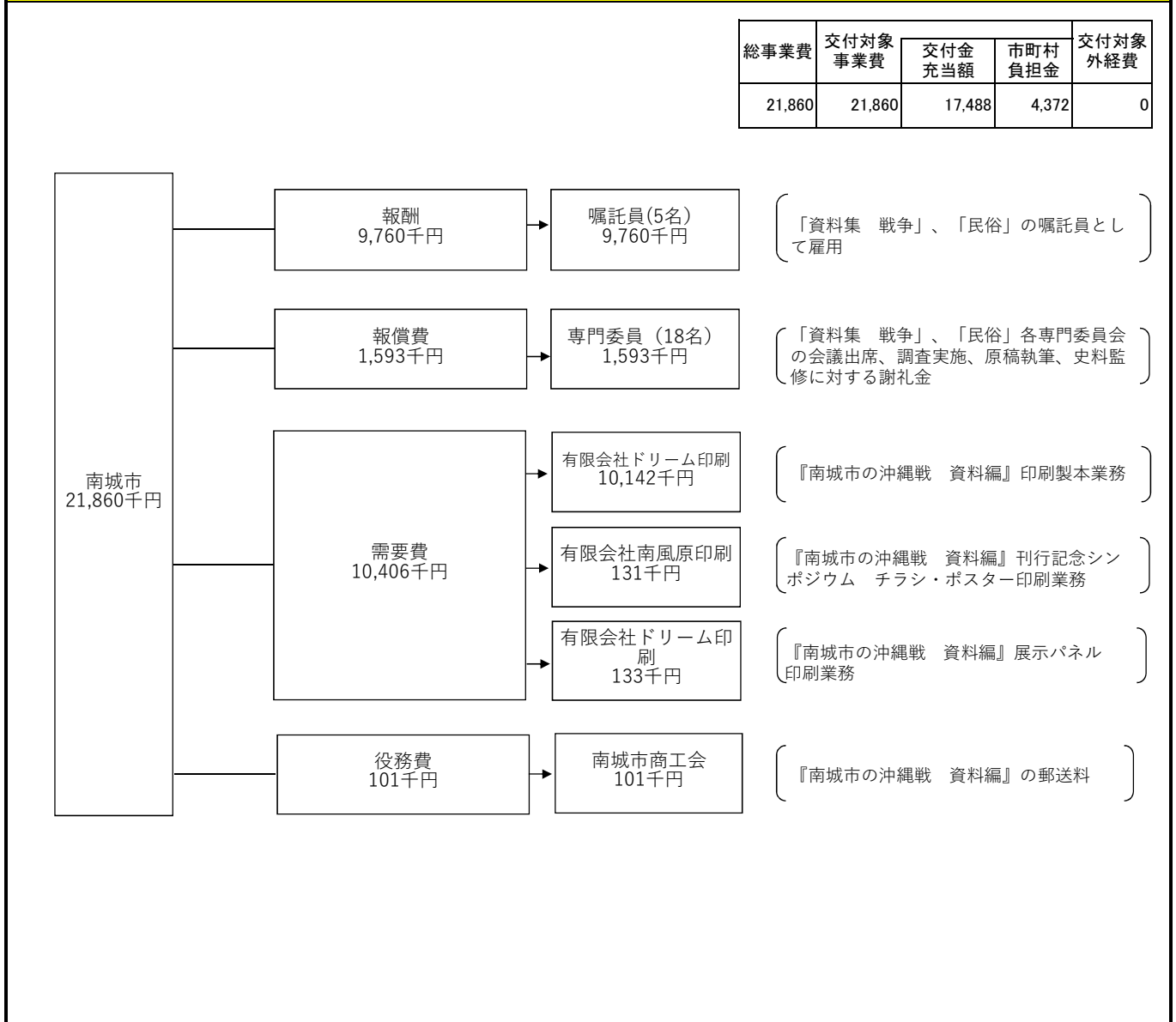
| | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|---|--|
| 取組の検証 | <ul style="list-style-type: none"> 『南城市の沖縄戦 資料編』について、委員会と事務局とが緊密に連携し、内容について幾度も検証を重ねたことで、質の高い刊行物を作成することができた。刊行記念シンポジウムについては新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったが、可能な限り事業成果を普及啓発するためパネル展示会を開催した。 地域の伝統的な民俗文化や戦前の様子を知る方、戦争体験者が高齢化のため、年々減少している。そのため、聞き取り調査や現地調査を行い、記録を残していくことの緊急性は依然高い。 | <ul style="list-style-type: none"> 今後は、刊行した『南城市の沖縄戦 資料編』やその編集過程で得た研究成果について、地域住民や児童生徒に普及啓発していく活動が必要となる。 今後予定している『南城市の沖縄戦 証言編』や『民俗編』の刊行に向けて、地域の文化をよく知る方や戦争体験者の方々の協力を得るため、地域住民との関係性を深めて、情報を得やすい環境づくりが必要である。 |

今後の取り組み方針

・これまでの調査や刊行物の成果を活用した南城市の歴史・文化の継承について、学習会の人数制限など新型コロナウイルスの感染拡大防止策を講じつつ、どのように取り組みを進めていくかについて検討する。

・地域住民との関係性を深めるため、区や自治会に引き続き事業の趣旨をよく説明し、フィールドワークを行う。また調査成果を積極的に還元する機会を設けることで、それに呼応した地域住民から新たな情報のフィードバックが得られるよう取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



| 資金の流点検・評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|-----------|----|--------------------------------|---|
| 資金の流点検・評価 | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○委託事業者は指名競争入札および随意契約(金額が小額である)で選定しており、妥当であったと考える。 |
| | △ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | ○嘱託職員報酬、委員会報償費に執行残が生じ、不用額が事業費の約14%となった。 |
| | — | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。 |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |